公益社団法人日本看護科学学会 2022 年 12 月社員総会 議事録

日　　時：2022 年 12 月 2 日（金）16：00～18：00
場　　所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
総 社 員 数：312 名
出席社員数：275 名（当日出席 37、委任状 225 名、議決権行使 13 名）
出席理事･監事：堀内成子（理事長）、法橋尚宏（副理事長）
（うち 14 人社員）池田真理、石橋みゆき、井上智子、江藤宏美、大久保暢子、亀井智子、近藤暁子、須釜淳子、手島恵、仲上豪二朗、中村幸代、宮下光令、南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上 50 音順）
議　　長：堀内成子（理事長）
議事録作成：宍戸恵理（聖路加国際大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

開 会

開会時、出席者数 28 名（うち理事・監事 14 名）、有効委任状・議決権行使 238 名、総計 266 名であり、日本看護科学学会定款第 23 条および第 24 条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会 2022 年 12 月社員総会を開催する旨が伝えられた。司会は法橋尚宏副理事長、書記は宍戸恵理（聖路加国際大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行なわれた。

II. 理事長挨拶

堀内成子理事長より、以下の挨拶があった。
12 月の忙しい時期に、日本看護科学学会 2022 年度 12 月社員総会に出席いただき感謝申し上げる。マスク越しではあるが、代議員の皆様と対面して話しができる機会を嬉しく思っている。コロナ前に対面で行った社員総会は、前期理事長の真田弘美先生の時（金沢）だったと記憶している。広い会場に 100 名以上の代議員が参加された総会であった。その後、コロナ禍となり、オンラインでの総会が続いたが、今回このように直接会うことができ、大変嬉しく思っている。代議員の方々のご協力により、日本看護科学学会の活動がますます発展していると実感している。

私達は今期のビジョンと運営方針を 3 つ掲げて活動してきた。1 本目の柱は、若手研究者の育成と研究能力の向上である。若手研究者の育成に関しては、前真田理事長からの方針を継承してきている。特に、論文公表の場としての和文誌・英文誌では新たに導入したファストトラック・迅速審査もうまく回っており、着実に発展してきた。和文誌は、12 月 1 日付で大幅に投稿規程を改定し、より多くの会員の論文を掲載できるよう整えている。英文誌は、念願であったインパクトファクターも上がってきているなど、投稿数や採択数の向上が見て取れる。本日配布しているが、英文誌 JJNS は創刊 20 周年を迎え、記念バッジを作成した。

次に研究能力の向上に関しては、大型研究費の獲得支援、ガイドラインの作成、若手の研究者支援の全国ネットワークを強化している。併せて国際化促進のため学会出席の助成や海外留学の研究助成のシステムを整え実施してきた。

2 本目の柱は、研究活動の推進である。特に、今年度から新たな研究助成制度を創設しスタートしている。助成は 2 種類あり、1 つは、挑戦的課題研究で、大学院生・ポストドクターを対象とした助成であり、28 件の応募があった。もう 1 つは、指定課題研究助成で、15 件の申請があった。共に現在選考

中であり、両助成とも会員から一定数の応募があり、ニーズに合っていると考えている。

このほかに、新しく JANSpedia という看護学用語の電子システムを構築し公開した。また、新たな社会貢献の推進として、看護研究者を目指す若者を増やすための様々な動画の作成や広報活動にも力を入れている。広報戦略の 1 つとして、ジャンとスゥという新たなマスコットキャラクターを開発、JANS ロゴの刷新も行うなどイメージアップにも取り組み、さらにコロナ禍で行われた様々な調査を公表、あるいはデータを共有化するという、新しい試みも行っており、それらがまとまってきていると考えている。

3 本目の柱は、将来を見据えた法人運営と、会則の整理や財産管理を検討している。2022 年 7 月に事務所を移転した。老朽化したビルから、新しい環境での事務所となった。新事務所は、オンラインシステムもしっかり整えている。また、本年 11 月 2 日には内閣府公益認定等委員会の立入検査も受け「指摘事項なし」の結果であった。引き続き法人運営も安定して行うよう進めていく所存である。

以上のように、3 つのビジョンと運営方針に沿って着々と進めているが、代議員の皆様の協力と理解によって成り立っているものと感謝している。今期の研究活動や様々な学会活動について、意見を皆様から伺いたい。

III. 第 42 回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

森山美知子学術集会会長より、以下の挨拶があった。

遠く広島までお越しいただき感謝申し上げる。代議員はじめ理事の皆様方にご協力いただきながら、着々と準備を進めてきた。現在の登録が約 3,900 件であり、会費の支払いが完了した方は 3,500 件と聞いている（12 月 2 日現在）。もう少し登録者を増やしたいと考えている。明日からの 12 月 3 日、4 日の学術集会では、充実したプログラムで開催できると信じている。引き続き、ご協力とご理解をいただき、盛り上げていただければ幸いである。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第 22 条 3 項に従い、堀内成子理事長が議長に選出された。議事録署名人は、議長から石垣和子氏（石川県立看護大学）と片岡純氏（愛知県立大学）の 2 名が推薦され、承認された。

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

１）総務報告〈中村幸代理事〉

議案書（p.4）に基づき、以下の報告があった。

2022 年 4 月 1 日から 10 月 11 日の会員推移における正会員増減であるが、2022 年 4 月 1 日現在の正会員 9,389 名、新規入会 707 名、再入会 89 名であり、2022 年度の入会者は 796 名である。2022 度の死亡喪失者は、4 名である。会員区分の変更は、正会員から名誉会員への変更は 2 名である（変更承認済）。10 月 11 日現在の正会員 10,179 名、名誉会員 20 名、賛助会員 4 名であり、会員の総数 10,203 名である。正会員数の年度別推移は、2021 年度に 1 万人を超え、2022 年度は 10,179 名と漸増ではあるが、確実に増えている。

２）理事会報告〈中村幸代理事〉

議案書（p.5-8）に基づき、理事会報告があった。

理事会は今期 6 回開催した（書面理事会 1 回、対面での理事会 1 回、オンライン開催 4 回）。第 1 回理事会は、5 月 20 日（金）に、理事 14 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長の出席があった。書面理

事会は、5 月 24 日（火）に、事務所の移転による定款の一部変更に伴う社員総会での審議のために行われた。第 2 回理事会は、6 月 19 日（日）に行われ、研究助成の認定について審議した。第 3 回理事会は、8 月 31 日（水）に行われ、事務所の移転が完了したこと等について報告があった。第 4 回理事会は、10 月 21 日（金）、第 5 回理事会は、12 月 2 日（金）に開催している。

３）委員会活動報告

議案書（P.13-22）に基づき、委員会活動報告があった。なお、委員会名簿を（p.9-12）に公開している。

(1) 和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

日本看護科学会誌 42 巻をオンラインで発刊した。2022 年 10 月の時点での投稿論文数 が 219 編あり、今年度は 250 編程度になると見込んでいる。ここ 5 年は増加傾向で、今年度は、昨年度と同数程度と見込んでいる。

前年度から導入の迅速査読は順調に行われており、投稿数が伸びている。査読の日数短縮（2 週間）を見直した新しい投稿規程は、来年 1 月頃に出来上がる予定である。今年は和文誌から 2 編、表彰論文の奨励賞が出ていることを嬉しく思っている。英文誌の JJNS の投稿規程と揃え、投稿しやすくするよう 12 月 1 日より改定しており、学術集会の交流集会で説明の予定である。代議員の先生方には査読をしていただき感謝している。

(2) 英文誌編集委員会〈江藤宏美理事〉

2004 年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）を発行、2014 年からは online-only journal として年 4 回の発行を実施している。また、JJNS セミナーを開催している。活動として次の 4 点がある。

① JJNS Vol.19 をオンラインで発刊した。年間 700 編の投稿数になっている。アジアからの投稿が多い。2022 年 1 月以降の投稿論文数は 541 編である（2022 年 10 月 3 日現在）。また表彰論文選考に参画した。2021 年度の impact factor は 1.619 で昨年より上がっている。

② 2020 年 3 月以降、博士号の学位申請・博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象となる「Fast Track Review（迅速査読）」の受付を開始している。依頼は 2020 年 20 編、2021 年 34 編、2022 年 34 編と増えている。

③ JJNS セミナーをオンライン開催予定である。「JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2022」はオンライン開催にて 2022 年 12 月 7 日～2023 年 1 月 31 日に配信予定である。

④ JJNS の創刊より 20 年目にあたり、これまでの活動の記念と発展を願い JJNS 広報の一環として記念バッジを製作した（1,000 個）。第 42 回日本看護科学学会学術集会はじめ、EAFONS2023 などの関連行事の際に配布予定である。

(3) 表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦などを行っている。

・表彰論文は和文誌、英文誌の中から賞に相応しい論文を選考した。選考手順として、和文誌、英文誌の各編集委員会から審査対象論文 14 編（和文 6 編・英文 8 編）を選定し、委員会内で候補論文 6 編（和文 3 編・英文 3 編）を審査リストとして選考した。2022 年 7 月 25 日に全代議員と役員の計 314

名へメールにて採点を依頼した。9 月 1 日までに返信された 191 件（回収率 60.8%）について集計し、議案書（P.14）のとおり英文誌から優秀賞 2 編（キタ幸子、阿部-土井麻里）、奨励賞 2 編（大槻奈緒子・園田希）を決定し、理事会に報告し承認を得た。明日の学会総会で表彰の予定である。

・他組織からの表彰候補者について、日本学術振興会賞(第 19 回）からの推薦依頼に対して選考し、2 名を推薦した。

・昨年の第 41 回学術集会に続き、本年の第 42 回学術集会でも演題表彰を実施する。賞は、「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は 2 段階で行う。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、各賞上位およそ 10 編を選考した。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、座長、および表彰論文選考委員会で審査、採点し、最終選考を行い、閉会式で表彰の予定である。

(4) 研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉〈代読：大久保暢子理事〉

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動報告、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 委員会としての活動

・2020 年より獲得支援を行っている「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学(Meaning Based Healthcare 学)(領域略称名：生きにくさの変容)」について引き続き支援を行った。

・上記の活動に加えて新たに「特別推進研究」「学術変革領域研究(A)」「学術変革領域研究(B)」「基盤研究(B)」「基盤研究(A)」へ研究代表者として申請を予定している会員への支援として、「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト」を開始し、2021 年 12 月 17～2022 年 1 月 31 日に申請を受け付け 2 件応募があった。審査の結果、涌水理恵氏（筑波大学）が採択された。研究チームの構築支援、研究者同士の情報共有の機会提供の支援を行っている。

・過去の大型研究獲得支援プロジェクトの経験を踏まえ、プロジェクトを進行していく上での規定や申し合わせ事項等の見直しを行った。

② JANS セミナーの企画・開催

・第 20 回 JANS セミナー「オープンサイエンスの進展と看護学の未来：オープンデータを看護学研究へ」を Web 開催した（2022 年 6 月 27 日～9 月 26 日まで)。受講者数は、881 名（会員 862 名、非会員 9 名、基礎教育課程学生 10 名）であった。2022 年度開催のこのセミナーから会員参加費が無料となった。

・第 21 回 JANS セミナーの企画検討を行った。

③ 第 42 回学術集会での交流集会の企画

・第 42 回学術集会において、交流集会「看護学研究の発展を目指して：大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう！」を開催する。

④ その他の事業

・社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として、「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行い、2022 年 3 月 2 日にトライアルを実施した。参加者は、学部学生 3 名を含む 22 名であった。2022 年 9 月 5 日にオンラインジャーナルクラブを開催した。定員は会員 80 名、看護学生 20 名設定のところ、会員 80 名、看護学生 10 名の申し込みがあった。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子理事〉

①モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2017 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」の開発・標準化を行っている。

・JJNS、日本看護科学会誌にガイドラインの一部が掲載された。

・2022 年 3 月 22 日 Minds ガイドラインライブラリに公開した。

②2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する。

・「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」

EAFONS 2023 での発表準備ならびにレビュー論文 3 編の投稿準備を行った。

・「高齢者排尿誘導ガイドライン」

高齢者尿失禁看護ケアガイドラインのアルゴリズムの検討を行った。

「生活指導」にて新規 SR チームを結成した。

高齢者尿失禁看護ケアのうち排尿誘導法のひとつである Prompted Voiding について SR の成果を発表する。

③2021 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する。

・「看護ケアのための慢性便秘のアセスメントに関する診療ガイドライン」

SR を実施し、推奨文の作成の準備を開始した。

第 42 回学術集会において、シンポジウムを開催する。

④日本薬理学会との共同学術企画

・第 95 回日本薬理学会年会（2022 年 3 月 7 日～9 日福岡、ハイブリット開催）において、日本薬理学会・日本生理学会・日本看護科学学会共催シンポジウム「インスリン・糖尿病研究の新展開：基礎から臨床まで」を行い、スコーピングレビューメンバー1 名が発表した。

・第 42 回学術集会において共催シンポジウムを開催する。

・スコーピングレビュー論文 5 編投稿予定。

(6) 若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二朗理事〉

JANS 若手の会ホームページや JANS メーリングリストより情報発信を行った。登録者数は 2022 年 3 月現在で 788 名（現在、870 名）であり、積極的に情報交換を行っている。

第 19 回 JANS セミナーを開催した。受講者は 262 名であった。COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を 3 名選出し、調査を実施した。JANS 若手の会エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。今年度内の検討会の開催について募集中である。

これまでは、エリア・コーディネーターは全国エリア別での活動が主であったが、担当エリアを超えた交流を促すことを目的に、エリア・コーディネーター合同ミーティングを開催した（オンライン開催）。また、エリア・コーディネーター用のワークスペースを開設した。

広報活動としては、JANS 若手の会ウェブサイトの大幅改修を行った。国際化に向けては、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。

日本心理学会第 86 回大会にて、日本心理学会と本学会の共同企画として、シンポジウムを開催した。日本学術会議より提出予定の Dx に関する報告書作成に若手メンバーとして参画している。

(7)国際活動推進委員会＊世界看護科学学会を含む〈池田真理理事〉

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画している。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指している。

第 42 回学術集会では、「第 7 回 World Academy of Nursing Science における日本からのシンポジストに学ぶ、プレゼンテーションに伴う経験知の宝箱」を開催する。WANS では、過去 4 年間理事長は、JANS から推薦された片田委員であった。2021 年 12 月 8 日の理事会にて、TNMC（Thailand Nursing Midwifery Council）の Tassana　Boontong 氏が理事長に選出された。2022 年 1 月より WANS 事務局もタイの TNMC に移行した。WANS の Website の移行は 6 月に手続きが完了した。

2022 年 10 月に開催された第 7 回世界看護科学学会学術集会の 4 つの招待シンポジウムの中の Education Session では、JANS から吉永尚紀氏が代表し発表した。なお、8 月に開催の WANS セミナーでは、4 つの共同企画（JANS、Thailand Nursing and Midwifery Council、Korean Society of Nursing Science、The Indonesian National Nurses Association）にて、オンラインにて開催した。

異文化看護データベースについては、アクセス数が一定数あるため、8 月に会員を対象に執筆者の募集を呼びかけ、24 件の応募があった。原稿の締め切りは 12 月末とし、引き続きデータ更新を進める方針である。

(8) 看護学学術用語検討委員会〈大久保暢子理事〉

①看護学術用語の電子システムの構築と公開

・過去の委員会で概念的統一を図り作成された 100 の用語、ならびに新用語の追加を行い、会員への情報提供と容易な活用、普及のために電子システムを構築した。この電子システムは、JANSpedia と命名し、JANS ホームページから簡便にアクセス可能として公開するに至っている。

・JANSpedia は商標登録を行い完了した。

②JANSpedia への新用語追加に対する募集要項等の作成

・既存の 100 の用語以外に、新用語を電子システムに追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成した。

・新用語の募集に関する広報を、紙面ポスターと会員メーリングリストにて募集を行った。この結果、9 つの新用語について申請があり、審査選考を行った結果、4 つの新用語が JANSpedia に掲載された。他 5 つの新用語については、審査後の用語内容の修正中で、近日中に掲載する予定である。

③第 42 回学術集会での交流セッションの開催

・交流集会「JANSpedia：あなたの看護学学術用語を登録しませんか？」を開催する。ミニレクチャーとして、看護学術用語の作成する際の留意点についてレクチャーし、JANSpedia の今後の発展を考えていく。

(9) 社会貢献委員会〈大久保暢子理事〉

①第 42 回学術集会において市民公開講座を開催

市民公開講座「がんとともに、わたしらしく」を開催する。2022 年 12 月 4 日 14 時-15 時 30 分を予定。演者は、広島大学大学院医系科学研究科教授　宮下美香氏、広島東洋カープ二軍外野守備・走塁コーチ　赤松真人氏である。現在 220 名の登録がある。

②次世代の看護学研究者育成事業の検討

これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代看護学研究者の育成・発掘事業「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として動画と Web サイトを立ち上げる計画で進めている。内容はドキュメンタリー形式で、看護学研究者 1 人に焦点を当て制作を進めている。近日中に一般公開の予定であり、中高生を対象に、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

③オンラインジャーナルクラブの計画案の検討
研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会との合同で運営している。

(10) 広報委員会〈法橋尚宏副理事長〉

・Web サイトの維持・管理・改善を定期的に行っている。
・学術集会等の広報活動として、第 41 回学術集会の様子はスクリーンショットにおさめ、記録として本会 Web サイトに掲載した。
・第 42 回学術集会のプレスリリースの作成・配布（文部科学省、厚生労働省、新聞社等報道機関）、市民フォーラム(市民公開講座）の広報活動を行った。
・委員会の成果物を実践へトランスレーションを行う企画である「看護研究の玉手箱」において、2021 年度表彰論文の追加掲載を行った。
・広報用マスコットキャラクターとして、ジャンとスゥを制作した。学会 Web サイトに公開しているので、様々な広報活動に使用して欲しい。
・デジタル広報の推進として、学会マスコットキャラクター（ジャンとスゥ）を使ったデジタル広報媒体を企画、制作検討中である。また、Facebook ページと YouTube チャンネルを開設し、デジタル広報を推進する企画も検討している。
・会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊準備をした。
・本会の公式ロゴ（ロゴマークとロゴタイプの組み合わせ）を整備、更新した。

(11) 看護倫理検討委員会〈手島恵理事〉

看護学が関連する倫理的社会事象である SDGs と看護学に関連するトピックスを取り上げ、第 42 回学術集会の交流集会で「SDGs×看護学・研究・倫理」について講演を行う。オーストラリアのウーロンゴン大学の学長であるパトリシアディビットソン氏より、SDGs についての看護学と研究について解説をいただく。

併せて、ピッツバーグ大学の DNP に所属のスンリー氏から国連の気候変動と健康に関する取り組み（ICN）を、委員の有森直子氏よりシティズンサイエンスについての講演後に情報交換を行う予定である。現在、若手研究者助成を受け留学している田中真木氏はカナダから参加の予定である。パトリシアディビットソン氏の講演動画は、3 月末まで JANS のホームページから視聴できるようにする予定で検討している。

(12) 利益相反委員会〈井上智子理事〉

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定することで不適切な事象が起こらないようマネジメントを行う。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し、答申に基づき改善措置を実施している。

・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮った。理事会では、一部質問等があり、継続審議となっている。
・和文誌・英文誌登用時の利益相反申告を引き続き実施した。
・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。

(13) 研究倫理審査委員会〈井上智子理事〉

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。研究倫理審査の実施として、2021 年 3 月から 2022 年 3 月までに 3 件の審査があり、再提出後承認 2 件、申請受理に至らないとの判断により 1 件不受理とした。また、外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。

(14) 災害看護支援委員会〈近藤暁子理事〉

「コロナ患者の対応を本務としていない JANS 会員の COVID-19 支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」を会員を対象として行い、900 名の回答を得た。また、第 42 回学術集会の交流集会において「COVID-19 感染拡大における看護教員や看護職の派遣支援について」を実施予定である。

(15) 若手研究者助成準備委員会〈亀井智子理事〉

2020 年からの準備委員会の活動を経て、2021 年 4 月から若手研究者への助成を開始した。初年度である 2021 年度上期は 3 件の申請があり、2 件（田中真木氏、八木街子氏）の海外留学について助成を決定した。2022 年度は随時募集を行っているが、問い合わせや申請はない状況である。今後改めて募集について検討したい。

(16) 会則等委員会〈石橋みゆき理事〉

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通し、公益社団法人として JANS が継続的かつ発展的な学会運営を行うため設置された委員会である。新規事業開始、規定類の改正に伴う定款の改正事項の点検および改正内容の検討を随時行っている。アドバイザーの意見を聞きながら進めている。

(17) COVID-19 看護研究等対策委員会〈須釜淳子理事〉

①第 1 回調査データを対象とした取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果を公表論文（6 論文）として学会 HP 上に公開した。

②新型コロナウイルス感染症による JANS 会員への研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2 回目）をオンライン調査で行い、報告書（日本語版・英語版）を HP 上に公開した。

③第 1 回、第 2 回の会員調査のデータ（量的）を、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託する検討を開始した。

④第 2 回調査データを対象として、取得済み調査データの分析・論文執筆を行う、学会主導型研究プロジェクトの公募準備を開始した。

(18) 総務委員会（中村幸代理事）

・2022 年の入会員数は総務報告で報告した通りである。

・学会事務所は文京区より千代田区に移転した。

(19) 研究助成選考委員会（法橋尚宏副理事長）

本委員会は、理事長の発案により、2022 年 6 月に新設された委員会である。2023 年度に助成金を支払い実施の予定である。

①実施内容の検討、決定

・正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
今年度 28 件の申請があり 10 件採択予定（1 件につき 50 万円）
・正会員（大学院生・ポストドクター除く）が研究を行うための指定課題研究助成
今年度 15 件の申請があり 5 件採択予定（1 件につき 100 万円）
・資金確保のため、研究助成資金を設置した。（3,000 万円）
②規程、細則、申し合わせ事項の作成と理事会承認、設置
③研究助成選考委員の提案と理事会承認
④内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請を実施（2022 年 3 月 30 日）。
⑤助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定を実施。システム導入には 450 万円ほどかかったが、継続的に使えるものである。
⑥今後のスケジュールに関する共有
・2022 年 7 月から募集し、11 月に選考を行った。
2023 年 3 月に結果の通知、2023 年 4 月に助成金を支払う予定

(20)選挙管理委員会〈中村幸代理事〉

本年度は、代議員、理事、監事の 3 つの選挙がある。

2023 年選出代議員選挙について、第 1 回選挙管理委員会を 2022 年 7 月 19 日に開催、今後のスケジュールなど内容の確認と共有を行った。また委員長が第 3 回理事会に出席し代議員選挙に関する公示文書を説明、承認を受けた後、会員に周知を行った。

2023 年選出役員候補者選挙について、第 2 回選挙管理委員会を 2022 年 11 月 7 日に開催し、投票手順等の確認を行った。今後としては 2023 年 1 月に代議員選挙および代議員名簿の作成、3 月に役員候補者選挙を実施の予定である。

(21) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）
・2022 年社員総会は、昨年と同様に開催形式を変更して開催された。
・本年 5 月に書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。
・本年 6 月の社員総会は書面議決書で出席した（2022 年 6 月 18 日開催）。
議案は資料のとおり。
・医療事故報告制度に関する支援として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により本年 1 月以降 3 名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については、2016 年度から行ってきた。毎年開催の協力学会説明会にも参加した。
・その他、JANA から得た情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。
② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）
・看保連 2022 年度研究助成への応募について、4 名（6 件）の申請を審査し 1 名を承認した。
・令和 6 年度診療報酬改定に向けた第 1 回委員会に参加した。
③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）
日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）
対応すべき事案はなかった。

【質疑】なし

Ⅵ. 審議事項

第 1 号議案：「2022 年度補正予算（2 次・案）」について、

議案書（p.27-30）に基づき、石橋理事から 2022 年 7 月に事務所移転を行ったことと、第 6 回世界看護科学学会学術集会事務局から寄付金を受けたことにより、補正予算の計上をする必要が生じたため、社員総会で承認いただきたい。

2020 年 2 月に開催の第 6 回 WANS 学術集会がコロナにより会場での実施ができず、演題の抄録公開のみでの開催実績となったために生じた収支差額を寄付金としていただいたのが収入の増額（約 800 万円）となっている。

また、日本看護科学学会事務所の老朽化と職場環境改善を目的に事務所移転を行っており、約 760 万円の支出が生じた。なお、旧事務所の原状回復も含め、140 万円の敷金を使用しており、収支差額としては約 530 万円の減となる見込みである。

第 1 号議案について、議長より質問や意見が促されたが特になく、社員総数の過半数を超える承認で提案通り承認された。

第 2 号議案：「2023 年度事業計画案の承認」ついて

議案書（p.31-36）に基づき、各担当理事より以下の説明があった。

(1) 学術集会〈中村幸代理事〉

＜第 43 回学術集会＞

大会長：田中マキ子（山口県立大学）

日時：2023 年 12 月 9 日(土)・10 日（日）

場所：海峡メッセ下関、下関市生涯学習プラザ（DREAM SHIP）

＜第 44 回学術集会＞

大会長：前田ひとみ（熊本大学）

日時：2024 年 12 月 7 日（土）・8 日（日）

場所：熊本城ホール

＜第 45 回学術集会＞

大会長：有森直子（新潟大学）

(2) 和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

・日本看護科学会誌第 43 巻を発行する。
・2020 年度に行った迅速査読制度、著者要件変更の評価を行う。
・必要に応じ投稿規程、査読ガイドライン等の改定を行う。
・学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。
・学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員や査読者の活動を支援する教育プログラムを交流集会で行う。

(3) 英文誌編集委員会〈江藤宏美理事〉

・Japan Journal of Nursing Science Vol. 20 を発行する。
・創刊 20 周年を記念して JJNS 関連行事にてプロモーション活動を行う。
・JJNS セミナー2023 を開催する。
・インパクトファクター向上を念頭に置いた戦略を構築する
・国内若手研究者の投稿数増加を図る。
・迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備する。

(4) 表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

・ 表彰論文の選考を行い公表する。
・ 学術集会における演題表彰制度を運用し、選考を行い演題表彰を実施する。
・ 他機関からの表彰に該当する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉〈代読：大久保暢子理事〉

・会員の研究の支援活動
　① 大型研究費の獲得支援活動を進めていく。
　② オンラインジャーナルクラブ実施の検討をする。
・JANS セミナーの企画・開催を行い、事務局とアーカイブの管理を行う。また、学術集会における交流集会を企画・開催する。

(6) 看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子理事〉

・2019 年度採択のガイドラインについては引き続き支援を行う。
・2021 年度採択のガイドライン作成チームの活動成果としてガイドライン草案を公開する。
　ならびに SR チームによるレビュー論文を投稿する。
・日本薬理学会との共同学術企画の成果として、スコーピングレビュー論文を投稿する。

(7) 若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二朗理事〉

・エリアコーディネーターとの連携を強化するために、エリアコーディネーター会議を開催し、エリアごとの実施と全体での実施を明確化する。
・若手ネットワーク活性化のための各種チャンネルの系統的活用法を検討する。
・日本心理学会との連携強化のための活動を推進する。
・Journal club の企画に参画する。
・若手研究者の JANS 各種企画への参加を促進するために、具体的な方法を検討する。

(8) 国際活動推進委員会〈池田真理理事〉

・国際学会での研究発表ができるよう増加施策としてセミナー等の企画を行う。
・国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で実施する。
・世界看護科学学会（WANS）などの海外学術団体と交流するための活動を行う。
・「異文化看護データベース」の更新を引き続き実施していく。

(9) 看護学学術用語検討委員会〈大久保暢子理事〉

・構築した電子システム（JANSpedia）に掲載する新しい看護学学術用語を継続募集・審査を行い、

JANSpedia の実測を促進し、実装評価と修正を継続する。
・既存の 100 の看護学術用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、JANSpedia の更新を行いシステムとしての拡充を図る。
・電子システム（JANSpedia）の英語版を作成し、日本で検討された看護学術用語をグローバルに配信し実装を行う。

(10) 社会貢献委員会〈大久保暢子理事〉
・第 43 回学術集会にて「市民公開講座」を開催する。
・次世代の看護学研究者の育成・発掘動画サイトの作成と実装の継続、中高生を対象とした交流企画を開催し、看護学研究者となる次世代に対する社会貢献事業を展開する。
・市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。

(11) 広報委員会〈法橋尚宏副理事長〉
・ 学会のホームページ（日本語・英語）の更新・管理等を行う。
・ WANS 関連の周知と学術集会に関する広報活動を行う。
・ 研究を実践へトランスレーションするための広報である「看護研究の玉手箱」にて表彰論文の紹介をする。
・ ニューズレター創刊の検討を行う。
・ 学会の Facebook ページと YouTube チャンネルを開設し、デジタル広報の場として活用する。
・ 学会のマスコットキャラクター（ジャンとスゥ）を広報活動に活用する。

(12) 看護倫理検討委員会〈手島恵理事〉
・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討していく。
・研究倫理の遵守及び倫理的な研究活動について啓発活動を行う。

(13) 利益相反委員会〈井上智子理事〉
・役員、委員会活動、投稿者、学術集会における発表者を対象として引き続き COI を実施する。
・学術活動の利益相反マネジメント指針・細則・COI 申告書を現況に合わせ、必要に応じて修正・更新を行う。

(14) 研究倫理審査委員会〈井上智子理事〉
申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。併せて研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(15) 災害看護支援委員会〈近藤暁子理事〉
・JANS 会員の COVID-19 支援状況および所属機関からのサポート、必要としている支援に関する調査の論文を国際誌に掲載する。また、分析結果をもとに支援を必要としている対象者に対する支援策を検討する。
・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集を行う。

(16) 若手研究者助成選考委員会〈亀井智子理事〉

・海外で開催される国際学会発表助成については、2023 年 4 月 1 日から随時幕集を受け付ける。

・海外留学についても随時募集の検討と 2023 年 3 月末までを申請期間として募集活動を行う。

上記の 2 つの申請に伴う、選考委員会を実施予定である。また、研究助成と同様のシステムに変更し業務の合理化を図る。

(17) 会則等委員会〈石橋みゆき理事〉

・既存の申し合わせ事項の会則との整合性の確認を進めていく。

・来年度の選挙に関わる定款の必要性を検討する。

(18) COVID-19 看護研究等対策委員会〈須釜淳子理事〉

・「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員への影響と学会に求める支援」に関する調査データ（第 1 回・2 回）の 2 次分析を促進する。

・第 2 回調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを行う。

(19) 総務委員会〈中村幸代理事〉

・入会審査を行う。

・会員管理データシステムの効率化を図る。

・事務所職員のマニュアルの見直しを促して、事務処理の効率化と合理化を検討し、会員サポートの充実を図る。

・委員会と事務所の連携強化を行う。

(20) 研究助成選考委員会〈法橋尚宏副理事長〉

・2023 年度助成金実施事業の確認を行う。

・2024 年度の募集（挑戦的課題研究助成・指定課題研究助成）を行う。募集期間は今年度と同様になる予定である。

(21) 選挙管理委員会〈中村幸代理事〉

・2023 年役員候補者名簿の提出を行う。

(22) 他機関との連携〈法橋尚宏副理事長／大久保暢子理事〉

日本看護系学会協議会、日本学術会議、看護系学会等社会保険連合、その他の機関と連携していく。

第 2 号議案について、議長より質問や意見が促され、以下のやりとりがあった。

＜意見・質問＞

・定款や事業計画に基づき、きめ細やかに活動していることは資料を見ても理解している。提案というほどではないが、こうした公式的な会とは別に社員に何かを問うような場があっても良いかなと思った。（小山社員）

・コロナでオンラインの総会が続いたが、本日は対面での社員総会であるので、お気づきのことがあれば、ぜひご意見等いただければと思っている。今期は前期の真田理事長の路線を踏襲しながら、監事

から遊休財産の使用についても指摘があり、研究活動の幅を広げる目的で研究助成制度の構築と事務所環境の向上を図るために事務所の移転を行った。若手の海外留学や学会参加の助成も始まっているが、今期はコロナの影響もあり、申請がない状況であった。また、和文誌や英文誌の査読期間の短縮化、迅速査読の実施など大きく進化している状況である。（堀内理事長）

・笹川財団が海外留学支援をしているが、JANS が海外留学を支援することへの独自性について教えて欲しい。（小山社員）

・若手研究者を対象に海外留学や海外での学会参加を促すために助成をすることで研究力を高め、将来の看護学研究の向上を目的に 2021 年度から行っている。2022 年度はコロナ禍で留学して研究したいと希望する人がいなかったが、学会としては、若手研究へ投資することによって学会活動が活発になると期待している。引き続き内容の検討を加えつつ進めたい。（亀井理事）

・本学会と笹川財団との関連はない。笹川財団は TOEFL などの条件が厳しく、対象も有名な大学に限定されている。本学会では、3 か月でも良いので外から日本を見る機会を作りたい、若手研究者の応援をしたいとして自分が理事長時代に発足した助成金制度である。必要としている人に目的をもって支援できる学会であって欲しいと考えている。（真田社員）

・初年度は 3 人中 2 人が採択された。例えば 2 カ月間、上司の了解を得て職場を留守にして留学することなど、様々な障壁はあると考えている。委員会においても、引き続き検討したい。（堀内理事長）

議長はその他、質問や意見を求めたが特になく、社員総数の過半数を超える承認で第 2 号議案は提案通り承認された。

第 3 号議案 「2023 年度予算（案）の承認」について

議案書(p.37-41)に基づき石橋みゆき理事より説明がなされ、審議が行われた。

事業活動収支予算書（案）から説明する。1.事業活動収入に関し、①会費収入は 101,750,000 円、②公益目的事業収入は 48,165,000 円を見込んでおり、大きいところとしては、学会誌事業収入 2,175,000 円、学術集会事業収入 45,750,000 円となっている。③収益事業等収入は、9,168,000 円、④法人会計収入は 951,000 円で、これは第 43 回学術集会での懇親会を行う予定であるため計上している。

従って、事業活動収入合計は 160,034,000 円となっている。

2.事業活動支出に関し、①公益目的事業支出は 129,547,000 円を見込んでいる。内訳として学術振興事業支出 32,301,000 円、学会誌事業支出 37,325,000 円（和文誌・英文誌）、学術集会費支出 55,059,000 円、市民講座等事業支出 4,862,000 円となっている。①のうち、若手研究者助成金支出 5,000,000 円と研究助成金支出 10,000,000 円は、積み立て分資金からの取り崩しとなっている。

②管理費支出については 67,636,000 円を見込んでおり、事業活動支出合計 199,383,000 円となっている。

収入から支出を除いた事業活動収支差額△39,349,000 円となっているが、若手研究者助成金支出と研究助成金支出は積み立て資金からの使用になるため、事業活動としては正味 24,000,000 円ほどのマイナス予算となる見込みである。理由としては、会員のセミナー参加費無料に伴う収入減約 400 万円、投稿数の増加による和文誌編集費支出の増額 150 万円、航空運賃の高騰による英文誌編集長の旅費の見直しによる英文誌編集費支出 200 万円、代議員の増員による社員総会費の増額 53 万円の影響がある。

内閣府には報告のとおり、現在、遊休財産が 9,000 万円を超えており、当学会の財務レベルでは、公益社団法人としてこれ以上遊休財産を増やすことができないため、積極的に使用することが好ましいことを考慮し、事業費の支出を増やしている。

続いて、p.40-41 の公益社団法人としての正式な収支予算書案である。内閣府にはこちらの予算書を提出している。
経常収益計は 160,034,000 円、経常費用計は 199,390,622 円、当期一般正味財産増減額は、△39,426,622 円となっている。

第 3 号議案について、議長より質問や意見が促され、以下のやりとりがあった。

＜質問・意見＞

・研究力をあげていこうという学会の考えは賛同している。予算面であるが学術集会の収入と支出のバランスを見ると 1,000 万円程度マイナスとなっている。今年度も補正予算などもあるが、主に学術集会が関係すると思う。学術集会は開催自体の経費も大きいが、運営を委託するコンベンション業者への手数料も大きいものがある。特に学術集会の予算がマイナス予算となるのは通常なのか。
（遠藤社員）

・学術集会の開催方法については慎重に検討している。今回の学術集会は JANS でも初めてハイブリット開催であり、正確な予算を見込めない状況にある。今年度も会場費およびオンラインの 2 つの経費がかかり、現状を聞きながら、学会から 1,000 万円程度の支援は必要であると考え、補正予算を計上した。（石橋理事）

・p.37 の③収益事業収入 900 万円ほど計上しているが、これは学術集会に使用する予算になっている。予算案の段階では、学術集会の収支は同額で作成しているが、その年の状況（ハイブリット開催等）により、補正予算を計上する手続きは監事から指導を受け対応している。（有田事務所長）
第 40 回、第 41 回の学術集会は、オンライン開催で共に黒字決算であった。特に第 41 回では会場費が返金され黒字幅が増えた。コロナは先が見通せない状況である。理事会としては、学術集会会長が思い切ってできるように応援したいと考え補正予算の計上など柔軟な対応を心がけている。
（堀内理事長）

・プログラムがたくさんあり、充実しており、2 日間で全て参加することは難しい状況である。
学会として、オンデマンド配信を今後も継続するなど、参加できる人を増やせるような工夫ができると良いと思う。また、学術集会会長は協賛金や広告料を取らないといけない、収支を黒字にしないといけないという気持ちで大変だと思うので、楽に開催できる方法を検討いただけると良い。
（泊社員）

・プログラムを見るとたくさんあり、見たいものがあっても 2 日間では全てを見ることはできない。現在、JANS セミナーについては、3 か月程度配信し見られるような工夫をしている。
学術集会においても、会員の声を取り上げ、オンデマンド配信やハイブリット開催するなど工夫していきたい。（堀内理事長）

・学術集会も以前のように自分たちが手弁当で行っていた時代とは異なり、演題数も増え、多くの来場もあるため運営をコンベンション業者に委託しての開催になる。コンベンション業者は 1 演題で 6～7 千円の手数料や全体の運営管理費も必要で、主催者は参加費以外の協賛金や広告料などの収入を増やすことに追われ、本来時間をかけて検討したい講演やシンポジウムなどのプログラムの検討が難しくなることが多い。JANS は現在のところ、財政的には問題ないようであるが、会場、オンラインの開催など多くの研究者が参加できる充実した内容での学術集会を今後も維持いただきたいと願っている。（遠藤社員）

議長はその他、意見や質問を求めたが特になく、過半数の承認で第 3 号議案は承認された。

Ⅶ.第 42 回学術集会の参加登録に関するお詫び

審議事項は以上であるが、第 42 回学術集会の参加登録に関し、運営事務局において管理運営上の間違いが生じたことに関して、事務所長より、資料に基づき説明と報告があった。

11 月 7 日より通常での参加費にてオンライン登録を開始した。この参加者には、カード決済後、ID と仮パスワードが発行されていたが、11 月 25 日 Web 抄録が公開された際に、運営事務局による作業上のミスがあり、再度、新たな ID とパスワードが送られたことで、一部の参加者は最初の ID とパスワードで抄録が閲覧できない状態となった。500 名程度の会員の皆様にご迷惑をおかけした可能性がある。現在は復旧しているが、今後は十分注意し、より運営事務局と連携しながら作業を行っていきたいと考えている。

Ⅷ.閉会

以上をもって、2022 年 12 月社員総会が閉会した。有効委任状・議決権行使を含め出席者数は 276 名であったことが法橋副理事長より報告された。

2023 年 2 月 22 日

議　長　　堀内　成子　　㊞

議事録署名人　　石垣　和子　　㊞

議事録署名人　　片岡　純　　㊞

公益社団法人日本看護科学学会　2022年12月社員総会　議事次第

日　時　2022 年 12 月 2 日（金）16：00～18：00
場　所　TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

I.　開　会

II.　理事長挨拶

III. 第42回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V.　総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案　2022年度補正予算（2次・案）の承認

第2号議案　2023年度事業計画（案）の承認

第3号議案　2023年度予算（案）の承認

VII.　閉　会

公益社団法人日本看護科学学会　役員

理 事 長　堀内 成子

副理事長　法橋 尚宏

理　事 ： 池田 真理、石橋 みゆき、井上 智子、江藤 宏美、大久保 暢子、
亀井 智子、近藤 暁子、須釜 淳子、手島 恵、仲上 豪二朗、中村 幸代、
深堀 浩樹、宮下 光令

監　事 ： 南 裕子、村嶋 幸代

名誉会員

阿曽 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋 みどり、
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸惠、中島 紀惠子、
中村 惠子、林 滋子、林 優子、樋口 康子、菱沼 典子、松野 かほる、矢野 正子、
山﨑 智子

賛助会員

㈱医学書院、㈱南江堂、㈱日本看護協会出版会、㈱へるす出版

（以上、五十音順・2022 年 10 月 1 日現在）

日本看護科学学会学術集会会長

第 42 回学術集会会長	第 43 回学術集会会長	第 44 回学術集会会長
森山 美知子	田中 マキ子	前田 ひとみ

社員

【北海道】
大日向 輝美
川村 三希子
菊地 ひろみ
今野 美紀
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
平 典子
松浦 和代
矢野 理香
吉田 礼維子

【東北】
朝倉 京子
安藤 広子
石井 範子
一戸 とも子
遠藤 恵子
大森 純子
尾﨑 章子
角濱 春美
木立 るり子
桑名 佳代子
小林 淳子
武田 利明
鄭 佳紅
野戸 結花
原 玲子
藤田 あけみ
古瀬 みどり
宮下 光令
吉田 俊子

【関東 A】
飯田 苗恵
市村 久美子
牛久保 美津子
内田 陽子
岡 美智代
金子 昌子
加納 尚美
神田 清子
近藤 浩子
齋藤 基
佐藤 由美
鈴木 幸子
鈴木 純恵
高井 ゆかり
常盤 洋子
巴山 玉蓮
春山 早苗
廣瀬 規代美
古谷 佳由理
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
村上 礼子
安酸 史子
横山 京子
六角 僚子

【関東 B】
荒木田美香子
飯村 直子
池崎 澄江
石橋 みゆき
上野 まり
岡田 忍
数間 恵子
勝山 貴美子
金井 PAK 雅子
黒田 裕子
小池 智子
近藤 まゆみ
齋藤 やよい
佐藤 禮子
茂野 香おる
島袋 香子
白水 眞理子
髙橋 眞理
田高 悦子
手島 恵
永田 智子
中山 登志子
深堀 浩樹
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
水戸 優子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
森 恵美
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邉 眞理

【東京 A】
五十嵐 歩
大江 真琴
大久保 暢子
大田 えりか
柏木 聖代
片岡 弥恵子
上別府 圭子
亀井 智子
戈木クレイグ
ヒル 滋子
真田 弘美
習田 明裕
武村 雪絵
田中 真琴
仲上 豪二朗
中山 和弘
成瀬 昂
春名 めぐみ
堀内 成子
前田 樹海
宮本 有紀
吉田 千文

【東京 B】
阿部 幸恵
飯野 京子
池田 真理
井上 智子
井村 真澄
江本 リナ
大久保 功子
太田 喜久子
岡谷 恵子
柏木 公一
香春 知永
亀岡 智美
川原 由佳里
北 素子
草間 朋子
小松 浩子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
田中 美恵子
筒井 真優美
長江 弘子
本庄 恵子
守田 美奈子
山内 豊明
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】
會田 信子
浅川 和美
有森 直子
遠藤 みどり
定方 美恵子
征矢野あや子
中込 さと子
平澤 則子
安田 貴恵子
八尋 道子

【北陸】
石垣 和子
大桒 麻由美
加藤 真由美
北岡 和代
須釜 淳子
長谷川 智子
平松 知子
松井 優子
丸岡 直子

【東海】
明石 惠子
浅野 みどり
足立 はるゑ
足立 久子
安藤 詳子
池松 裕子
市江 和子
大石 ふみ子
大島 弓子
太田 勝正
大西 文子
岡田 由香
片岡 純
片山 はるみ
門間 晶子
篠崎 惠美子
島内 節
白尾 久美子
白鳥 さつき
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
奈良間 美保
野口 眞弓
深田 順子
藤井 徹也
古田 加代子
本田 育美
操 華子
箕浦 哲嗣
三吉 友美子
柳澤 理子
山田 紀代美
山田 聡子
渡邉 順子

【近畿 A】
赤澤 千春
秋元 典子
東 ますみ
網島 ひづる
池田 清子
石井 豊恵
井上 智子
ウィリアムソン 彰子
内布 敦子
江川 幸二
江川 隆子
大野 かおり
大野 ゆう子
片田 範子
勝原 裕美子
工藤 美子
久米 弥寿子
グライナー 智恵子
黒田 裕子
洪 愛子
河野 あゆみ
近藤 麻理
清水 安子
鈴木 久美
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
玉木 敦子
都筑 千景
泊 祐子
楢木野 裕美
二宮 啓子
籏持 知恵子
林 千冬
法橋 尚宏
前川 幸子
牧本 清子
松田 宣子
丸 光惠

【近畿 B】
吾妻 知美
伊波 早苗
岩脇 陽子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
河原 宣子
竹之内 沙弥香
内藤 知佐子
西垣 昌和
西田 直子
藤本 幸三
星野 明子
松月 みどり
吉岡 さおり
若村 智子

【中国・四国】
吾郷 美奈恵
畦地 博子
井伊 久美子
伊東 美佐江
内田 宏美
瓜生 浩子
大川 宣容
岡田 淳子
雄西 智恵美
折山 早苗
掛田 崇寛
片山 陽子
岸田 佐智
久保田 聰美
小山 眞理子
陶山 啓子
祖父江 育子
竹崎 久美子
長戸 和子
中西 純子
中山 洋子
野嶋 佐由美
野本 百合子
原 祥子
百田 武司

深田 美香
藤田 佐和
南 裕子
宮下 美香
森下 安子
森本 美智子
森山 美知子
薬師神 裕子
山田 覚

【九州・沖縄】
飯野 英親
宇佐美 しおり
宇都 由美子
江藤 宏美
大池 美也子
岡﨑 美智子
尾形 由起子
影山 隆之

神里 みどり
金城 芳秀
国府 浩子
斉藤 ひさ子
正野 逸子
竹熊 千晶
谷口 初美
田村 やよひ
長家 智子

中嶋 恵美子
永松 有紀
野間口 千香穂
橋口 暢子
日高 艶子
藤田 君支
前田 ひとみ
益守 かづき
松浦 賢長

三橋 睦子
宮園 真美
宮林 郁子
村嶋 幸代
村田 節子

（以上、312 名
地区別
五十音順）

（2022 年 10 月 1 日現在）

総務報告

1.　会員推移（2022年4月1日～2022年10月11日）

1）正会員数増減

①2022年4月1日正会員数

9389名＝2022年3月31日正会員数10041名　－　2022度資格喪失者652名

（自主退会419名、会費未納233名）

②2022年度の入会者

796名＝新規入会707名　＋　再入会89名

③2022年度の死亡喪失者　　4名

④会員区分の変更　　2名　　正会員から名誉会員（下記3）の承認者）

2）賛助会員増減　　なし

3）名誉会員　　承認　　2名

4）2022年10月11日現在　会員数

正会員	10,179	※4月1日正会員数+入・再入会数-会員区分変更数－死亡喪失者数
名誉会員	20	
賛助会員	4	
会員総数	10,203	

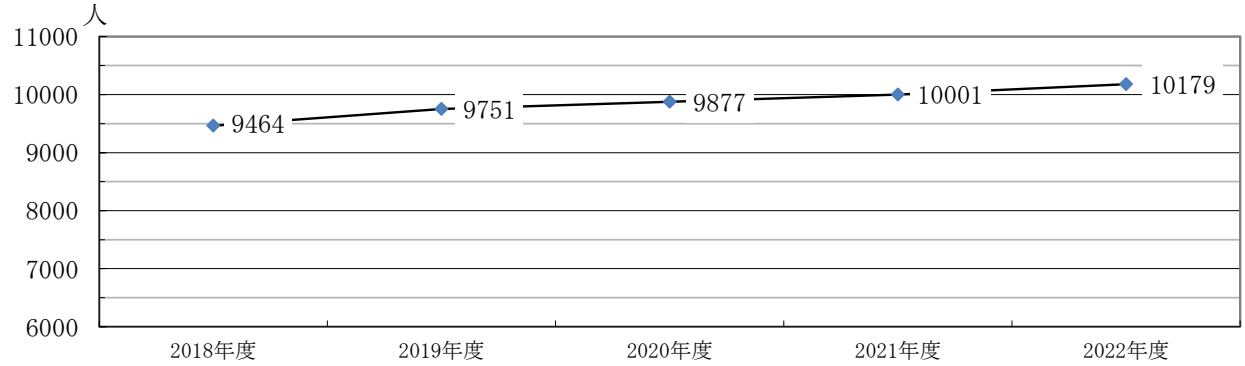
2.　地区別正会員数　（2022年10月11日　会員数10,179）

地区	都道府県	正会員数
北海道 408	北海道	408
東北 592	青森	132
	岩手	90
	宮城	184
	秋田	67
	山形	65
	福島	54
関東A 826	茨城	136
	栃木	130
	群馬	188
	埼玉	372
関東B 1184	千葉	555
	神奈川	629
東京A 707	※1	707
東京B 829	※2	829
甲信越 347	新潟	127
	長野	143
	山梨	77
北陸 338	富山	94
	石川	176
	福井	68
東海 1129	静岡	197
	愛知	565
	岐阜	206
	三重	161
近畿A 1226	大阪	660
	兵庫	566
近畿B 542	滋賀	113
	京都	266
	奈良	102
	和歌山	61
中国・四国 1037	鳥取	45
	島根	55
	岡山	182
	広島	317
	山口	58
	徳島	67
	香川	71
	愛媛	101
	高知	141
九州・沖縄 957	福岡	482
	佐賀	50
	長崎	78
	熊本	78
	大分	50
	宮崎	73
	鹿児島	53
	沖縄	93
宛先不明者		57
合計		10,179

※1　千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2　渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、　豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3.　正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

（2022 年 4 月 1 日～2022 年 12 月 3 日）

2022 年度第 1 回理事会

日　時：2022 年 5 月 20 日（金）13：00～15：30

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3　富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 選挙管理委員の選定について
3. 総務会からの提案・報告
4. 2022 年 6 月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項
   1) 和文誌編集委員会
   2) 英文誌編集委員会
   3) 表彰論文選考委員会
   4) 研究・学術推進委員会
   5) 看護ケア開発・標準化委員会
   6) 若手研究者活動推進委員会
   7) 国際活動推進委員会
   8) 看護学学術用語検討委員会
   9) 社会貢献委員会
   10) 広報委員会
   11) 看護倫理検討委員会
   12) 利益相反委員会
   13) 研究倫理審査委員会
   14) 災害看護支援委員会
   15) 若手研究者助成選考委員会
   16) 会則等委員会
   17) COVID-19 看護研究等対策委員会
   18) 研究助成選考委員会
   19) 総務委員会
   20) 他団体との連携について

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

③ 日本学術会議

④ その他の団体

6. 入会希望者の承認
7. その他

書面理事会

日　時：2022 年 5 月 24 日（火）

（理事会の決議があったものとみなされた日：2022 年 5 月 26 日）

出席者：理事 15 名

〈審議事項〉

「定款の一部変更を定時社員総会の議案に加える」ことについて

2022 年度第 2 回理事会

日　時：2022 年 6 月 19 日（日）10：00～10：55

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3　富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 15 名、監事 2 名　第 42 回学術集会会長　※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）企画委員名簿の提出
3. 研究助成の認定について
4. 事務所移転について
5. 2022 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
6. 委員会からの報告および審議事項　※報告または審議のある委員会のみ
7. 入会希望者の承認
8. その他

2022 年度第 3 回理事会

日　時：2022 年 8 月 31 日（水）13：00～15：17

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長、第 43 回学術集会会長、選挙管理委員長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 2023 年代議員選挙および 2023 年選出役員候補者選挙について
4. 総務会からの提案・報告
5. 2022 年 12 月社員総会と第 42 回学会総会について
6. 会計報告（各委員会予算執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認
9. その他

2022 年度第 4 回理事会

日　時：2022 年 10 月 21 日（金）13：00～15：00（予定）

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 15 名、監事 1 名、第 42 回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 12 月社員総会の議案の承認、進行の確認
5. 第 42 回学会総会の議案の承認、進行の確認
6. 会計報告（2022 年度委員会活動費執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

2022 年度第 5 回理事会

日　時：2022 年 12 月 2 日（金）14：00～16：00（予定）

場　所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前（予定）

出席者：理事 15 名、監事 2 名（予定）

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2022 年 12 月社員総会の資料と進行の確認

3. 第 42 回学会総会の資料と進行表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

公益社団法人日本看護科学学会　2021-2022年度委員会名簿

※所属機関名は2022年10月20日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長	宮下光令	東北大学大学院
	編集長	河野あゆみ	大阪公立大学
	編集長	春名めぐみ	東京大学大学院
		會田信子	信州大学
		飯岡由紀子	埼玉県立大学
		宇佐美しおり	四天王寺大学
		落合亮太	横浜市立大学
		小野若菜子	聖路加国際大学
		梶井文子	東京慈恵会医科大学
		片山はるみ	浜松医科大学
		勝山貴美子	横浜市立大学
		キタ幸子	国立成育医療研究センター
		佐藤伊織	東京大学大学院
		瀬戸奈津子	関西医科大学
		征矢野あや子	京都橘大学
		田中真琴	東京医科歯科大学大学院
		玉木敦子	神戸女子大学
		鶴若麻理	聖路加国際大学
		成瀬昂	東京大学大学院
		新家一輝	名古屋大学大学院
		春山早苗	自治医科大学
		細田泰子	大阪公立大学大学院
		松井優子	公立小松大学
		宮本有紀	東京大学大学院
		森本悦子	甲南女子大学
		師岡友紀	武庫川女子大学
		矢野理香	北海道大学大学院
		吉田俊子	聖路加国際大学
	会計	吉田美香子	東北大学
英文誌編集	編集長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
	委員長	江藤宏美	長崎大学
	理事長	堀内成子	聖路加国際大学
	理事	近藤暁子	東京医科歯科大学
		朝倉京子	東北大学大学院
		池田理恵	和歌山県立医科大学
		池松裕子	修文大学
		石原逸子	神戸市看護大学
		梅田麻希	兵庫県立大学
		加藤憲司	神戸女子大
		北岡和代	公立小松大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		グレッグ美鈴	名桜大学大学院
		コリー紀代	北海道大学大学院
		齋藤あや	新潟大学
		佐藤奈保	千葉大学大学院
		千葉由美	横浜市立大学
		千葉理恵	神戸大学大学院
		月野木ルミ	東京医科歯科大学
		角田秋	東京有明医療大学
		中村美鈴	東京慈恵会医科大学
		野口眞弓	日本赤十字豊田看護大学
		深井喜代子	東京慈恵会医科大学
		藤田君支	九州大学大学院
		丸山昭子	松陰大学
		操華子	静岡県立大学
		山崎あけみ	大阪大学
		吉永尚紀	宮崎大学
	会計	朝澤恭子	東京医療保健大学

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
表彰論文選考	委員長	亀井智子	聖路加国際大学大学院
	理事	宮下光令	東北大学大学院
	理事	江藤宏美	長崎大学
		赤澤千春	大阪医科薬科大学
		荒木田美香子	川崎市立看護大学
		有森直子	新潟大学
		牛久保美津子	群馬大学大学院
		梅田麻希	兵庫県立大学
		佐居由美	聖路加国際大学
		真田弘美	石川県立看護大学
		永井優子	自治医科大学
		野間口千香穂	宮崎大学
		藤田君支	九州大学大学院
		増島麻里子	千葉大学大学院
		綿貫成明	国立看護大学校
	会計	長谷川真澄	札幌医科大学
研究・学術推進	委員長	深堀浩樹	慶應義塾大学
	理事	大久保暢子	聖路加国際大学
		大江真琴	金沢大学
		柏木公一	国立看護大学校
		小池智子	慶應義塾大学
		小玉淑巨	北里大学
		酒井郁子	千葉大学大学院
		新福洋子	広島大学大学院
		武村雪絵	東京大学医学部附属病院
		友滝愛	東海大学
		福井小紀子	東京医科歯科大学大学院
	会計	五十嵐歩	東京大学
看護ケア開発・標準化	委員長	須釜淳子	藤田医科大学
	理事	石橋みゆき	千葉大学大学院
		大田えりか	聖路加国際大学大学院
		佐藤和佳子	山形大学
	会計	松本勝	石川県立看護大学
若手研究者活動推進	委員長	仲上豪二朗	東京大学大学院
	理事	須釜淳子	藤田医科大学
	理事	池田真理	東京大学大学院
		天野薫	聖隷クリストファー大学
		加澤佳奈	広島大学大学院
		菅野恵美	東北大学
		新福洋子	広島大学大学院
		友滝愛	東海大学
		横田慎一郎	東京大学
		吉永尚紀	宮崎大学
	会計	麦田裕子	東京大学大学院
国際活動推進	委員長	池田真理	東京大学大学院
		片田範子	三重県立看護大学
		金井PAK雅子	関東学院大学
		グレッグ美鈴	名桜大学大学院
		高井ゆかり	群馬県立県民健康科学大学
		竹之内沙弥香	京都大学大学院
		中村美鈴	東京慈恵会医科大学
		成瀬和子	東京医科大学
		操華子	静岡県立大学
		柳澤理子	愛知県立大学
		山川みやえ	大阪大学大学院
	会計	宮本有紀	東京大学大学院

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
看護学学術用語検討	委員長	大久保暢子	聖路加国際大学
		大田えりか	聖路加国際大学大学院
		大村佳代子	兵庫県立大学
		住谷ゆかり	日本赤十字看護大学 さいたま看護学部
		田中晴佳	名古屋大学大学院
		藤田佐和	高知県立大学
		本庄恵子	日本赤十字看護大学
		横田慎一郎	東京大学
	会計	蜂ヶ崎令子	東邦大学
社会貢献	委員長	大久保暢子	聖路加国際大学
		有森直子	新潟大学
		角濱春美	青森県立保健大学
		木下真吾	日本赤十字広島看護大学
		髙橋恵子	埼玉県立大学
		寺本千恵	広島大学大学院
		中谷信江	山口県立大学
		松石雄二朗	聖路加国際大学
		水戸優子	神奈川県立保健福祉大学
	会計	吉田みつ子	日本赤十字看護大学
広報	委員長	法橋尚宏	神戸大学
		岡田忍	千葉大学大学院
		田中マキ子	山口県立大学
		水戸優子	神奈川県立保健福祉大学
		宮下美香	広島大学大学院
		吉田美香子	東北大学
	会計	副島尭史	神戸大学大学院
看護倫理検討	委員長	手島恵	千葉大学大学院
		有森直子	新潟大学
		岡田淳子	県立広島大学
		白鳥さつき	名古屋学芸大学
		村井文江	常磐大学
		鶴若麻理	聖路加国際大学
	会計	田中真木	University of Alberta
利益相反	委員長	井上智子	国際医療福祉大学
	理事	石橋みゆき	千葉大学大学院
		會田信子	信州大学
		鄭佳紅	青森県立保健大学
	会計	森下純子	国立看護大学校
	外部委員	友納理緒	土肥法律事務所
研究倫理審査	委員長	井上智子	国際医療福祉大学
	副委員長	茂野香おる	淑徳大学
		吾郷美奈恵	島根県立大学
	外部委員	隈本邦彦	江戸川大学
	外部委員	戸塚実	長野県立こども病院
	外部委員	友納理緒	土肥法律事務所
災害看護支援	委員長	近藤暁子	東京医科歯科大学
		河原宣子	京都橘大学
		牛久保美津子	群馬大学大学院
		近藤麻理	関西医科大学
		神原咲子	神戸市看護大学
	会計	今津陽子	東京医科歯科大学大学院
若手研究者助成選考	委員長	亀井智子	聖路加国際大学大学院
	副委員長	池田真理	東京大学大学院
	理事	江藤宏美	長崎大学
	理事	須釜淳子	藤田医科大学
	理事	仲上豪二朗	東京大学大学院
	理事	深堀浩樹	慶応義塾大学
	理事	宮下光令	東北大学大学院
		グレッグ美鈴	名桜大学大学院
	外部委員	丹野義彦	日本心理学会

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
研究助成選考	委員長	法橋尚宏	神戸大学
	理事	井上智子	国際医療福祉大学
	理事	大久保暢子	聖路加国際大学
	理事	近藤暁子	東京医科歯科大学
	理事	中村幸代	横浜市立大学
会則等	委員長	石橋みゆき	千葉大学大学院
	理事	井上智子	国際医療福祉大学
	理事	手島恵	千葉大学大学院
	理事	宮下光令	東北大学大学院
	会計	大江真琴	金沢大学
COVID-19看護研究等対策	委員長	須釜淳子	藤田医科大学
	理事	池田真理	東京大学大学院
	理事	仲上豪二朗	東京大学大学院
	理事	深堀浩樹	慶應義塾大学
		加澤佳奈	広島大学大学院
		新福洋子	広島大学大学院
		田中マキ子	山口県立大学
		友滝愛	東海大学
		横田慎一郎	東京大学
		吉永尚紀	宮崎大学
総務	委員長	中村幸代	横浜市立大学
	理事	池田真理	東京大学大学院
		永田智子	慶應義塾大学
選挙管理	委員長	武村雪絵	東京大学医学部附属病院
		香春知永	武蔵野大学
		河野あゆみ	大阪公立大学
		佐藤由美	群馬大学
		長江弘子	亀田医療大学

委員会活動報告

（2022 年 1 月～12 月）

(1) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

学会誌（日本看護科学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

・日本看護科学会誌 42 巻をオンラインで発刊した。

・2022 年 1 月以降の投稿論文数は、219 編であった（2022 年 10 月現在）。

・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。

・表彰論文選考に参画した。

② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

・投稿規程等の全面的な見直しを行った。2022 年 10 月現在システム改修中であり、終了次第、告知および適用する予定である。

③ 第 42 回学術集会にて交流集会「JANS 和文誌の投稿規程・査読ガイドライン改定の概要と最近の話題」を企画

(2) 英文誌編集委員会（江藤宏美理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

① Japan Journal of Nursing Science Vol.19 をオンラインで発刊した。

② 2022 年 1 月以降の投稿論文数は、541 編であった（2022 年 10 月 3 日現在）。

③ 表彰論文選考に参画した。

・2021 年の Impact Factor は、1.691 であった（2022 年 6 月発表による）。

② 迅速査読希望の状況

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020 年 20 編・2021 年 30 編・2022 年 10 月 3 日現在、34 編）

③ JJNS セミナーの開催

JJNS セミナー： Improving Your Success at Publishing in English 2022 をオンラインで開催する（2022 年 12 月 7 日～2023 年 1 月 31 日配信予定）。

④ 発刊 20 周年記念事業

JJNS バッジの制作：

JJNS の創刊より 20 年目にあたり、これまでの活動の記念と発展を意図して、JJNS 広報の一環として制作した。第 42 回 JANS 学術集会はじめ、EAFONS2023 やその他、関連行事の際に配布の予定。

⑶ 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 14 編（和文 6 編・英文 8 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 6 編（和文 3 編　英文 3 編）を審査リストとして作成した。

・2022 年 7 月 25 日に、全代議員、役員 314 名にメールにて採点を依頼した。

・9 月 1 日までに返信された 191 件について評価点の集計を行った。回収率 60.8%(191/314)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 2 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- Impact of intimate partner violence and childhood maltreatment on maternal－infant maltreatment: A longitudinal study
  Sachiko Kita(45 歳未満), Hiromi Tobe（非会員）※, Kaori Umeshita（非会員）※, Mayu Hayashi（非会員）※, Kiyoko Kamibeppu
  JJNS, 2021, Volume 18, Issue 1(e12373)
- Damage to subcutaneous tissue at the catheterization site during chemotherapy: A prospective observational study using ultrasonography
  Mari Abe-Doi（45 歳未満）, Ryoko Murayama, Atsuo Kawamoto（非会員）※, Chieko Komiyama, Ardith Doorenbos（非会員）※, Hiromi Sanada
  JJNS, 2021, Volume 18, Issue 4(e12436)
  ※本賞は会員のみ授与される

【奨励賞】

- 放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所における医療的ケア児受入の関連要因
  大槻 奈緒子（45 歳未満），生田 花澄，福井 小紀子
  日本看護科学会誌 2021 年 41 巻 p.29-36
- 乳児との対面接触による妊婦の対児感情と不安への効果：ランダム化比較試験

園田 希（45 歳未満），髙畑 香織，堀内 成子
日本看護科学会誌 2021 年 41 巻 p.449-457

② 他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第 19 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2 名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰制度の検討

第 42 回学術集会において演題表彰を実施する。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は 2 段階で行った。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、各賞上位およそ 10 名を選考した。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、座長、および表彰論文選考委員会で採点をし、最終選考を行い、閉会式で表彰する。

(4) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動の報告、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 委員会としての活動

・2020 年より獲得支援を行っている「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名：生きにくさの変容）」について、引き続き支援を行った。

・上記の活動に加えて新たに「特別推進研究」「学術変革領域研究（A）」「学術変革領域研究（B）」「基盤研究（S）」「基盤研究（A）」へ研究代表者として申請を予定している会員への支援として「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト」を開始し、令和 3（2021）年 12 月 17 日− 令和 4（2022）年 1 月 31 日に申請を受け付け 2 件の応募があった。審査の結果、涌水理恵氏（筑波大学）が採択された。研究チームの構築支援、研究者同士の情報共有の機会の提供の支援を行っている。

・過去の大型研究獲得支援プロジェクトの経験を踏まえ、プロジェクトを進行していく上での規定や申し合わせ事項等の見直しを行った。

② JANS セミナーの企画・開催

・第20回JANSセミナー「オープンサイエンスの進展と看護学の未来：オープンデータを看護学研究へ」を Web 開催した（2022 年 6 月 27 日～9 月 26 日まで）。受講者数は、881 名（会員 862 名・非会員 9 名・基礎教育課程学生 10 名）であった。2022 年度開催のこの度のセミナーから、会員参加費が無料となった。

・第 21 回 JANS セミナーの企画検討を行った。

③ 第 42 回学術集会での交流集会の企画

第 42 回学術集会において交流集会「看護学研究の発展を目指して：大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう！」を開催する。

④ その他の事業

・社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として「オンラインジャーナルク

ラブの実施」について検討を行い、2022 年 3 月 2 日にトライアルを実施した。参加者は学部学生 3 名を含む 22 名であった。2022 年 9 月 5 日にオンラインジャーナルクラブを開催した。定員 会員 80 名 看護学生 20 名 設定のところ、会員 80 名、看護学生 10 名の申込があった。

・オンラインジャーナルクラブの運営についてのマニュアル等の整備を行った。

・JANS セミナーのアーカイブ化について、公開期間や発表者への確認事項等を検討し理事会に報告した。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子理事）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。

① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2017 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

・社員に冊子体送付、日本語版は JANS ホームページで公開、英語版ガイドラインは JANS 英語ホームページで公開。

・JJNS、日本看護科学会誌にガイドラインの一部が掲載された。

・2022 年 3 月 22 日 Minds ガイドラインライブラリに公開。

② 2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

◆「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）

・EAFONS 2023 での発表準備ならびにレビュー論文 3 編の投稿準備を行った。

◆「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）

・高齢者尿失禁看護ケアガイドラインのアルゴリズムの検討を行った。

・「生活指導」にて新規 SR チームを結成した。

・高齢者尿失禁看護ケアのうち排尿誘導法のひとつである Prompted Voiding について SR の成果を発表する。

③ 2021 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

◆「看護ケアのための慢性便秘のアセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表（藤田医科大学）

・SR を実施し、推奨文の作成の準備を開始した。

・第 42 回学術集会において、シンポジウムを開催する。

④ 日本薬理学会との共同学術企画

・看護薬理学カンファレス 2022 in 福岡（2022 年 3 月 6 日オンライン開催）において、共催シンポジウム「With コロナ時代にリサーチマインドをいかに発揮するか？」を行い、JANS 会員 5 名が司会・発表を行った。

・第 95 回日本薬理学会年会（2022 年 3 月 7 日～9 日 福岡、ハイブリッド開催）において、日本薬理学会・日本生理学会・日本看護科学学会共催シンポジウム「インスリン・糖尿病研究の新展開：基礎から臨床まで」を行い、あり発表した（2022 年 3 月 9 日）。

・第 96 回日本薬理学会年会（2022 年 11 月 30 日～12 月 3 日、横浜）において、共催シンポジウム「がん薬物療法における QOL 向上を目指して」を開催する。

・第 42 回学術集会において、共催シンポジウムを開催する。

・スコーピングレビュー論文執筆を開始した（5 編投稿予定）。

(6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二朗理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

・JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。

・JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は 2022 年 3 月現在で計 788 名である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。

・日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。

② JANS セミナーの開催

第 19 回 JANS セミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」（オンデマンド配信）を開催した（2022 年 3 月 23 日～5 月 31 日）。受講者数は 262 名（会員 245 名・非会員 15 名・基礎教育課程学生 2 名）であった。

③ COVID-19 が JANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

・COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を 3 名選出し、調査を実施した。
詳細は COVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。

・2022 年 3 月に第二回調査（Web 調査）を実施した（3 月 31 日回答締め切り）。

④ エリア検討会開催支援

JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2021 年度に開催されたエリア検討会は、2022 年 3 月 5 日第 3 回中国・四国エリア検討会、2022 年 3 月 12 日第 2 回北関東エリア検討会であった。2022 年度は、2022 年 5 月 14 日第 1 回甲信越・北陸エ

リア検討会、2022 年 8 月 20 日第 3 回北関東エリア検討会を開催した。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

⑤ エリア・コーディネーター活動の活性化

・これまでエリア・コーディネーターは全国エリア別での活動が主であったが、担当エリアを越えた交流を促すこと、また、エリア・コーディネーターの意見を学会活動に反映することを目的とし、2022 年 3 月にエリア・コーディネーター合同ミーティングを開催した（2022 年 3 月 14 日、3 月 29 日の 2 回に分けて実施、いずれもオンライン開催）。

・エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用 Slack ワークスペースを開設した。

⑥ 広報活動

JANS 若手の会のウェブサイトについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成し、ウェブサイトの改修を行った。今後引き続きウェブサイトを通じて情報を発信する。

⑦ 若手研究者の国際化に向けて

世界看護科学学会 WANS における、JANS と Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA) との合同開催セミナー（2022 年 8 月 9 日開催）において、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。

⑧ 日本心理学会とのコラボレーション

日本心理学会第 86 回大会にて、日本心理学会と本学会の共同企画として、シンポジウム「シングルケースデザインをどう考えるか：個に寄り添う科学と実践」（一般公開講座）を開催した（2022 年 9 月 10 日）。終了後、オンデマンド配信した（2022 年 10 月 31 日（月）17 時まで）。

https://confit.atlas.jp/guide/event/jpa2022/subject/32101-01-01/classlist

⑨ 日本学術会議　報告書作成への参画

日本学術会議より提出予定の Dx に関する報告書作成に参画している。

(7) 国際活動推進委員会＊世界看護科学学会を含む（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画　交流集会

・第 42 回学術集会で、交流集会「第 7 回 World Academy of Nursing Science における日本からのシンポジストに学ぶ、プレゼンテーションに伴う経験知の宝箱　－The progress－」を開催。

② 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science：WANS）

・過去の 4 年間、理事長は JANS から推薦された片田委員であった。2021 年 12 月 8 日の理事会で理事

長の選挙を行い、TNMC（Thailand Nursing Midwifery Council)の Tassana Boontong 氏が理事長に選出された。2022 年 1 月より WANS 事務局もこちらに移行した。WANS の Website の移行については、6 月に手続きが終了した。

・WANS セミナー：開催日時：2022 年 8 月 9 日（火）日本時間 15:00-18:00

JANS と Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC),Korean Society of Nursing Science (KSNS), The Indonesian National Nurses Association (INNA)との共同企画で、WANS セミナーをオンライン開催した。

事前登録者数 215 名、うち実際に参加した人は 153 名であり、アンケート結果 （回答者 58 名）では、6 名の若手研究者の発表に大変勇気づけられたなどの感想とともに、参加をして大変満足していたことがうかがえた。

・第 7 回世界看護科学学会学術集会（WANS）2022 年 10 月開催の 4 つの招待シンポジウムの中の Education Session において、JANS からは吉永尚紀氏が代表として発表する。

③ 異文化看護データベース

以前より検討していた、異文化データベースの更新について方針を確定。執筆要領を作成し、8 月 6 日に会員を対象に執筆者の募集を呼び掛けた。現在 24 件の応募があり、原稿締切は 12 月末となっている。引き続きデータ更新を進める。

(8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

① 看護学術用語の電子システムの構築と公開

・過去の委員会で概念的統一を図り作成された 100 の用語、ならびに新用語追加を行い、会員への情報提供、会員の容易な活用ならびに普及のために電子システムを構築した。

・電子システムは JANSpedia と命名し、JANS ホームページから簡便にアクセス可能とした。

・2022 年 4 月から、既存の 100 の用語を JANSpedia（https://scientific-nursing-terminology.org/）に掲載した。

・JANSpedia の商標登録を行った。

② JANSpedia への新用語追加に対する募集要項等の作成

・既存の 100 の用語以外に、新用語を電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成した。

・新用語の募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。

・現在、申請された新用語について審査中であり、応募者に返信の上、12 月中に JANSpedia に掲載予

定である。

③ 第 42 回学術集会での交流セッションの開催

第 42 回学術集会で交流集会「JANSpedia：あなたの看護学学術用語を登録しませんか？」を開催する。

④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

上記委員会（2022 年 1 月 21 日、5 月 6 日、7 月 1 日、8 月 23 日）に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

(9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通した社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業などを実施。

① 第 42 回学術集会において市民公開講座を開催

第 42 回学術集会で市民公開講座「がんとともに、わたしらしく」を開催する。

会期：2022 年 12 月 4 日 14 時～15 時 30 分（予定）

会場：広島国際会議場（予定）Web 講演無料配信あり

演者：広島大学大学院医系科学研究科 教授 宮下美香氏

広島東洋カープ二軍外野守備・走塁コーチ 赤松真人氏

② 次世代の看護学研究者育成事業の検討

・次世代の看護学研究者育成事業として、これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代育成・発掘事業「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をテーマとして、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」動画とウェブサイトを立ち上げる計画を立案した。

・現在、動画作成の検討中であり、この動画を視聴した中高生を対象に、今後、交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

③ オンラインジャーナルクラブの計画案の検討と試行

研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会との合同で会員対象にオンラインジャーナルクラブの内容を検討し、2 回の試行を行った（詳細は、研究・学術推進委員会の報告を参照）。

(10) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

① ウェブサイトの維持・管理・改善

本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

② 学術集会等の広報活動

第 41 回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会ウェブサイトに掲載した。

・第 42 回学術集会のプレスリリースの作成・配布、市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。

③ 委員会成果物の公表

JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2021 年度表彰論文の追加掲載を行った。

④ 広報用マスコットキャラクターの制作

学会マスコットキャラクターとして、ジャンとスゥを制作した。

⑤ デジタル広報の推進

・学会マスコットキャラクター（ジャンとスゥ）を使ったデジタル広報媒体を企画、制作中である。

・Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）と YouTube チャンネル（電子的広報の場）を開設し、デジタル広報を推進した。

・会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊の準備をした。

⑥ 日本看護科学学会の公式ロゴについて

・本会の公式ロゴ（ロゴマークとロゴタイプの組み合わせ）を整備した。

(11)看護倫理検討委員会（手島恵理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

上記の目標に関連し、看護学が関連する倫理的社会事象である SDGs と看護学に関連するトピックスを取り上げ、第 42 回日本看護科学学会学術集会で「SDGs×看護学・研究・倫理」についての交流集会を企画し、実施する。

(12)利益相反委員会（井上智子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮った。理事会では一部質問等があり、継続審議となった。

・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。

・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。

・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。

(13)研究倫理審査委員会（井上智子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

・2021 年 3 月～2022 年 3 月までに 3 件の申請があり、前年度条件付きの回答をし、再提出後承認 2 件、申請受理に至らないとの判断により 1 件不受理とした。

・外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。

(14)災害看護支援委員会（近藤暁子理事）

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。

・「コロナ患者の対応を本務としていない JANS 会員（教員、大学院生など）の COVID-19 支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」の研究計画書を作成した。

・上記研究計画書を大学の倫理委員会で承認を得、さらに理事会の承認を経て「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」の調査を実施した（2022 年 7～8 月）。

・第 4 2 回日本看護科学学会学術集会の交流集会において「COVID-19 感染拡大における看護教員や看護職の派遣支援について」を実施予定（2022 年 12 月 4 日）。

(15)若手研究者助成選考委員会（亀井智子理事）

2020 年からの準備委員会の活動を経て、2021 年 4 月から若手研究者への助成を開始した。

・初年度である 2021 年度上期は 3 件の申請があり、2 件の海外留学について助成を決定した。

氏名（敬称略）	計 画 名	金額
田中　真木	University of Alberta への海外留学	1,060,000 円
八木　街子	ハワイ大学シミュレーションセンター（SimTiki Simulation Center,University of Hawaii）への留学	1,060,000 円

・2022 年度は随時募集を行っているが、問い合わせや申請はない状況である。
今後改めて募集について検討したい。

(16) 会則等委員会（石橋みゆき理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

研究助成等の新規事業の開始に伴い、正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

(17) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第 2 条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、この COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的 (2～3 年) な活動をすることで理事会承認により設置された。

① 第 1 回調査データを対象とした取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果を公表論文として学会 HP 上に公開した。

- Yoshinaga N, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Sanada H, Sugama J.
  Initial impact of the COVID-19 pandemic on time Japanese nursing faculty devote to research: Cross-sectional survey.
  Japan Journal of Nursing Science. 2022;19(1):e12454.
- 天野薫, 森本浩史, 渡邉梨央, 佐藤浩二, 深堀浩樹, 新福洋子, 吉永尚紀.
  COVID-19 拡大状況下における看護研究活動の阻害要因と促進要因の探索
  日本看護科学会誌. 2021;41:656-664.
- Kazawa K, Shimpuku Y, Yoshinaga N.
  Characteritics of early-career nurse researchers negatively impacted during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study.
  BMJ Open. 2022;12:e059331
- Inoue M, Tohira H, Yoshinaga N, Matsubara M.
  Propensity - matched comparisons of factors negatively affecting research activities during the COVID - 19 pandemic between nursing researchers working in academic and clinical settings in Japan
  Japan Journal of Nursing Science. 2022:e12491
- Takeuchi A, Yokota S, Tomotaki A, Fukahori H, Shimpuku Y, Yoshinaga N.
  Relationship between research activities and individual factors among Japanese nursing researchers during the COVID-19 pandemic.
  PLOS ONE. 2022;17(8):e0271001.

- Nagata K, Tanaka K, Takahashi Y, Asada Y, Shimpuku Y, Yoshinaga N, Sugama J.
  Support nursing researchers' need from academic societies during COVID-19: A cross-sectional survey
  Nursing and Health Sciences. 2022;10.1111/nhs.12988. [online ahead of print]

② 新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員への研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2 回目）を 2022 年 3 月 7 日～3 月 31 日オンライン調査で行い、報告書（日本語版、英語版）を HP 上に公開した。

③ 第 1 回・第 2 回の会員調査のデータを、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託する検討を開始した。

④ 第 2 回目調査データを対象とした取得済み調査データの分析・論文執筆を行う、学会主導型研究プロジェクトの公募準備を開始した。

(18) 総務委員会（中村幸代理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理は IT の導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2022 年の入会審査数は、833 名であった（2022 年 10 月現在）。

② 学会事務所の運営

・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。

・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特に COVID-19 対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。

・事務所の移転のために、移転先の条件の整理・検索・検討し、8 月に下記に移転し、HP やメール等で公開した。

東京都千代田区神田須田町一丁目 5 番地 14　ディアマントビル 6 階

・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(19) 研究助成選考委員会（法橋尚宏副理事長）2022 年 6 月新設

2022 年 7 月 26 日から会員向けに申請を開始している。総務会・理事会を中心に以下の活動を行った。

① 実施内容の検討、決定

・正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成

・正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成

・資金の確保　等

② 規程（研究助成選考委員会の新設を含む）、細則、申し合わせ事項の作成と理事会承認、設置

③ 研究助成選考委員の提案と理事会承認

④ 内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請（2022 年 3 月 30 日）

⑤ 助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定

⑥ 今後のスケジュールに関する共有

・2022 年 7 月以降（募集）、11 月～（選考）、2023 年 3 月～（結果の通知）

・2023 年 4 月（助成金支払）等

(20) 選挙管理委員会（中村幸代理事）

① 2023 年選出代議員選挙実施

・第 1 回選挙管理委員会を 2022 年 7 月 19 日に開催、委員長、副委員長、書記等の役職の決定と、2023 年に実施の代議員および役員選挙に関し、今後のスケジュール、委員会日程、公示文書等の確認を行った。

・委員長が第 3 回理事会に出席、代議員選挙に関する公示文書を説明し、承認を得た後、会員へ周知を行った。

② 2023 年選出役員候補者選挙準備

・第 2 回選挙管理委員会を 2022 年 11 月 7 日に開催、代議員選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。

・2023 年 1 月に代議員選挙および代議員名簿の作成、3 月に役員候補者選挙を実施の予定。

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）

・2022 年度社員総会は、COVID-19 の感染拡大を防ぐため、昨年と同様に開催形式を変更して開催された。

・2022 年 5 月 14 日に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。

・2022 年度社員総会に書面議決書で出席した（2022 年 6 月 18 日開催）。
議案：2021 年度決算報告、2021 年度会計監査報告
報告事項：各事業報告、2022 年度事業案ほか

・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2022 年 1 月以降は 3 名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については 2016 年度から行ってきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した（2022 年 3 月 22 日オンラインにて）。

・その他、JANA から提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

・看保連 2022 年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ 4 名（6 件）の応募があり、社会貢献委員会で審査し 1 名が承認となった。

・令和 6 年度診療報酬改定に向けた第 1 回委員会に参加した。

・【看保連】第 15 回情報交換会「エビデンスをもとに診療報酬を語る」のお知らせを会員メーリングリストにて行った。

③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）

・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）

対応すべき事案はなかった。

第 1 号議案

2022 年度補正予算（2 次・案）の承認

2022 年 7 月に事務所移転を行ったことと、第 6 回世界看護科学学会学術集会事務局から寄付金を受けたことにより、別紙予算書のとおり補正予算の計上をする必要が生じたため、社員総会に提出する。

公益社団法人　日本看護科学学会

2022年度　収支予算書（2次補正）　案

2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

科　　目	補足	2022年度 ２次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2022年度 １次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
Ⅰ　事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入		**101,450,000**	**101,450,000**	**0**
正会員会費収入		101,200,000	101,200,000	0
賛助会員会費収入		250,000	250,000	0
②公益目的事業収入		**62,169,000**	**54,127,000**	**8,042,000**
寄付金収入（共通）	※1	8,042,000	0	8,042,000
学術振興事業収入		3,120,000	3,120,000	0
JANSセミナー		3,120,000	3,120,000	0
学会誌事業収入		5,007,000	5,007,000	0
学会誌販売収入		377,000	377,000	0
著作権料収入		3,200,000	3,200,000	0
学会誌収入その他		300,000	300,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
学術集会事業収入		46,000,000	46,000,000	0
学術集会参加費収入		42,500,000	42,500,000	0
事前登録会員（10,000円）		20,000,000	20,000,000	0
事前登録非会員（12,000円税込）		5,400,000	5,400,000	0
事前登録学部生（3,000円税込）		0	0	0
事前登録海外オンライン（2,000円）		140,000	140,000	0
当日登録会員（12,000円）		12,000,000	12,000,000	0
当日登録非会員（14,000円税込）		4,900,000	4,900,000	0
当日登録学部生（3,000円税込）		0	0	0
当日登録海外オンライン（2,000円）		60,000	60,000	0
寄附金・助成金		3,500,000	3,500,000	0
寄附金		500,000	500,000	0
助成金		3,000,000	3,000,000	0
③収益事業等収入（広告販売収入）		**9,911,000**	**9,911,000**	**0**
企業展示出展料		5,148,000	5,148,000	0
広告掲載料		2,123,000	2,123,000	0
ランチョンセミナー		2,640,000	2,640,000	0
④法人会計収入		**751,000**	**751,000**	**0**
懇親会収入		750,000	750,000	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
事業活動収入合計（Ⅰa）		**174,281,000**	**166,239,000**	**8,042,000**
2. 事業活動支出				
①公益目的事業支出		**129,858,000**	**129,858,000**	**0**
学術振興事業支出		23,650,000	23,650,000	0
研究・学術推進委員会費支出		1,540,000	1,540,000	0
看護ケア開発・標準化委員会		10,120,000	10,120,000	0
若手研究者活動推進委員会費支出		587,000	587,000	0
国際活動推進委員会費支出		620,000	620,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		300,000	300,000	0
看護学学術用語検討委員会費支出		628,000	628,000	0
看護倫理検討委員会費支出		363,000	363,000	0
災害看護支援委員会支出		400,000	400,000	0
研究倫理審査委員会費		140,000	140,000	0
研究助成選考委員会		4,500,000	4,500,000	0
若手研究者助成選考委員会		60,000	60,000	0
若手研究者助成金支出		3,000,000	3,000,000	0
JANSセミナー開催費		1,392,000	1,392,000	0
学会誌事業支出		34,809,000	34,809,000	0
和文誌編集委員会費支出		115,000	115,000	0
和文誌編集費支出		10,870,000	10,870,000	0
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
英文誌編集費支出		19,900,000	19,900,000	0
表彰論文選考委員会費支出		354,000	354,000	0
受賞論文表彰費支出		1,500,000	1,500,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
学術集会費支出		65,432,000	65,432,000	0
当年度開催学術集会		62,208,000	62,208,000	0
次年度開催学術集会（準備期間）		3,224,000	3,224,000	0
市民講座等事業支出		5,967,000	5,967,000	0
社会貢献委員会支出（市民フォーラム開催費含む）		4,477,000	4,477,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		1,490,000	1,490,000	0

科　　目	補足	2022年度 ２次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2022年度 補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
②管理費支出		**73,342,000**	**65,666,000**	**7,676,000**
給料手当支出		25,065,000	25,065,000	0
福利厚生費支出		4,512,000	4,512,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		520,000	520,000	0
社員総会費		3,400,000	3,400,000	0
理事会費		2,580,000	2,580,000	0
委託費支出	※2	9,286,000	6,410,000	2,876,000
人件費支出		40,000	40,000	0
渉外費支出		14,000	14,000	0
旅費交通費支出		357,000	357,000	0
通信運搬費支出	※3	2,124,000	2,070,000	54,000
消耗品費支出	※4	3,382,000	1,035,000	2,347,000
印刷製本費支出	※5	203,000	103,000	100,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		617,000	617,000	0
賃借料支出	※6	7,114,000	4,822,000	2,292,000
保険料支出	※7	91,000	84,000	7,000
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		840,000	840,000	0
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		3,000,000	3,000,000	0
懇親会運営費支出		2,288,000	2,288,000	0
委員会活動費支出		5,119,000	5,119,000	0
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
利益相反委員会費支出		135,000	135,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		660,000	660,000	0
選挙費用支出		4,294,000	4,294,000	0
③その他支出		**2,200,000**	**2,200,000**	**0**
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
事業活動支出合計(Ⅰb)		**205,400,000**	**197,724,000**	**7,676,000**
事業活動収支差額(Ⅰa)-(Ⅰb)		**△ 31,119,000**	**△ 31,485,000**	**366,000**
Ⅱ　投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入(各積立金を取り崩し、それを資金として使用する)				
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		4,294,000	4,294,000	0
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩		3,000,000	3,000,000	0
長期前払費用振替収入		110,000	110,000	0
保証金戻り収入	※8	1,400,000	0	1,400,000
投資活動収入合計(Ⅱa)		**9,104,000**	**7,704,000**	**1,400,000**
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
①特定資産取得支出（各積立預金に振り替える）		**3,300,000**	**3,300,000**	**0**
選挙積立預金		2,000,000	2,000,000	0
退職給付引当金積立		1,300,000	1,300,000	0
②固定資産取得支出（固定資産に計上する）		**7,109,000**	**0**	**7,109,000**
建物附属設備取得支出	※9	2,550,000	0	2,550,000
什器備品取得支出	※10	1,304,000	0	1,304,000
長期前払費用取得支出	※11	55,000	0	55,000
敷金支出	※12	3,200,000	0	3,200,000
投資活動支出合計(Ⅱb)		**10,409,000**	**3,300,000**	**7,109,000**
投資活動収支差額(Ⅱa)-(Ⅱb)		**△ 1,305,000**	**4,404,000**	**△ 5,709,000**
Ⅲ　財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計(Ⅲa)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計(Ⅲb)		0	0	0
財務活動収支差額(Ⅲa)-(Ⅲb)		**0**	**0**	**0**
Ⅳ　予備費支出		**1,000,000**	**1,000,000**	**0**
当期収支差額		**△ 33,424,000**	**△ 28,081,000**	**△ 5,343,000**

※1　第6回世界看護科学学会学術集会(2020年2月)からの寄付金。
※2　事務所移転に伴う引越関連費用。旧事務所の原状回復費用。
※3　事務所移転の周知ハガキ郵送代等。
※4　移転に伴う新規什器・備品の購入と各種封筒等作成。
※5　移転周知ハガキ、名刺等の印刷代。
※6　新事務所の家賃・共益費・礼金。
※7　新事務所の火災保険料。
※8　旧事務所賃貸契約解除による保証金の戻り。固定資産（保証金）の減少。
※9　新事務所の間仕切工事・防災設備工事・照明設備工事・電気工事費用。固定資産（建物附属設備）に計上。
※10　新事務所のモニター取付工事・電話工事・ＬＡＮ工事。固定資産（什器備品）に計上。
※11　新事務所礼金のうち（2024.4.1～2024.6.30)を固定資産（長期前払費用）に計上。
※12　新事務所敷金。固定資産（敷金）に計上。

第 2 号議案

公益社団法人　日本看護科学学会　2023 年度事業計画（案）

（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

(1) 学術集会

・第 43 回日本看護科学学会学術集会開催

第 43 回学術集会会長：田中マキ子（山口県立大学）

日程：2023 年 12 月 9 日（土）・12 月 10 日（日）

場所：海峡メッセ下関、下関市生涯学習プラザ（DREAM SHIP）

・第 44 回日本看護科学学会学術集会準備

第 44 回学術集会会長：前田ひとみ（熊本大学）

日程：2024 年 12 月 7 日（土）・12 月 8 日（日）

場所：熊本城ホール

・第 45 回日本看護科学学会学術集会準備

第 45 回学術集会会長：有森 直子（新潟大学）

(2) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

・日本看護科学会誌第 43 巻を発行する。

・2020 年度に行った迅速査読制度、著者要件変更の評価を行う。

・必要であれば投稿規程、査読ガイドライン等の改定を行う。

・学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。

・学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。

(3) 英文誌編集委員会（江藤宏美理事）

・Japan Journal of Nursing Science Vol.20 を発行する。

・創刊 20 周年を記念して、JJNS 関連行事にてプロモーション活動を行う。

・JJNS セミナー2023 を開催する。

・インパクトファクター向上を念頭に置いた戦略を構築する。

・国内若手研究者の投稿数増加を図る。

・迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備。

(4) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

・表彰論文の選考を行い公表する。

・学術集会における演題表彰制度を運用し、選考を行い、閉会式において演題表彰を実施する。
・他機関からの表彰の推薦依頼に関する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

1）会員の研究の支援活動

① 大型研究費の獲得支援活動を継続して行う。運営方法を検討しつつ、公募、審査、支援を実施する。

② 若手研究者活動推進委員会・社会貢献委員会と協働して、オンラインジャーナルクラブを継続して行う。運営方法を検討しつつ、定期的に開催する。

2）セミナー・交流集会

① JANS セミナーの企画・開催を行い、事務局とアーカイブの管理を行う。

② 学術集会における交流集会を企画・開催する。

3）その他

① 研究・学術推進に関する事業を企画・検討する。

(6)看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子理事）

・2021 年度採択のガイドライン作成チームの活動成果としてガイドライン草案を公開する。ならびに SR チームによるレビュー論文を投稿する。
・日本薬理学会との共同学術企画の成果として、レビュー論文を投稿する。

(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二朗理事）

・エリア・コーディネーターとの連携を強化するために、エリア・コーディネーター会議を開催し、エリアごとに実施することと全体で実施することを明確化する。
・若手ネットワーク活性化のための各種チャンネルの系統的活用法を検討する。
・Journal club（研究・学術推進委員会）に参画する。
・日本心理学会との連携強化のための活動を行う。
・COVID-19 第 2 回調査（COVID-19 看護研究等対策委員会）に参画する。
・国際化の推進に向けた JANS セミナーを企画・運営する。
・交流集会を企画・運営する。
・広報活動（学会ウェブサイトの更新、リーフレットの作成）の充実を図る。
・若手研究者の JANS 各種企画（学会、セミナー等）への参加を促進するために、具体的な方法を検討する。

(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

・国際学会での研究発表の増加施策としてセミナー等の企画を行う。
・国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で実施する。
・海外学術団体と交流するための活動を行う。
・JANS ホームページ内「異文化看護データベース」を更新する。

(9) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

・構築した電子システム(JANSPedia)に掲載する新しい看護学学術用語を継続募集・審査を行い、JANSPedia の実装を促進し、実装評価と修正を継続する。
・既存の 100 の看護学学術用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、JANSPedia の更新を行う。
・電子システム(JANSPedia)の英語版を作成し、日本で検討された看護学術用語をグローバルに配信し実装を行う。

(10) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

・第 43 回学術集会にて「市民公開講座」を開催する。
・次世代の看護学研究者の育成・発掘動画サイトの作成と実装の継続、中高生を対象とした交流企画を開催し、看護学研究者となる次世代に対する社会貢献事業を展開する。
・市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。

(11) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を行う他、他委員会との連携による学会活動の広報活動を展開する。
・WANS に関連した広報（①WANS 学術集会の広報、②WANS 学術集会における JANS の広報）について検討する。
・学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会と社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」において、表彰論文の紹介を行う。
・会員への情報提供のためにニューズレターを創刊、定期的に会員宛に電子メールで一斉配信を行う。
・学会の Facebook ページと YouTube チャンネルを開設し、Facebook ページは会員が交流できる会員フォーラム、YouTube チャンネルは電子的広報の場として活用する。
・学会のマスコットキャラクター（ジャンとスゥ）を広報活動に活用する。ジャンとスゥを活用した広報動画を制作、公開する。

(12) 看護倫理検討委員会（手島恵理事）

・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

(13) 利益相反委員会（井上智子理事）

・役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。

・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則・COI 申告書を必要に応じて修正・更新する。

(14) 研究倫理審査委員会（井上智子理事）

・申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。

・産学共同研究、起業看護職（自営等も含む）の研究倫理審査での利益相反委員会との連携を行う。

・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(15) 災害看護支援委員会（近藤暁子理事）

・JANS 会員の COVID-19 支援状況及び所属機関からのサポート、必要としている支援に関する調査の論文を国際誌に掲載する。

・上記分析結果をもとに支援を必要としている対象者に対する支援策を検討する。

・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集を行う。

(16) 若手研究者助成選考委員会（亀井智子理事）

2023 年度の募集と実施について

① 海外で開催される国際学会発表への助成

2023 年 4 月 1 日から随時応募受付。

② 海外留学への助成

2023 年度中に開始される海外留学への助成

2022 年 11 月～2023 年 3 月末まで応募受付（予定）。

③ 選考委員会の開催

上記①、②の申請により選考を実施の予定。

④ 申請・選考システムの変更（更新）

現在のシステムを研究助成と同じ様式のシステムに変更し業務の合理化を図る。

(17) 会則等委員会（石橋みゆき理事）

1. 既存の申し合わせ事項の会則との整合性の確認
   新規事業の開始に伴い新たな申し合わせが作成されている。各種申し合わせ及び内規と定款及び定款細則との整合性の点検を行い、修正すべき点を洗い出す。
2. 定款の改正の必要性の検討
   新規事業の創設、実施にあたり、定款との整合性を確認・点検する。
3. その他
   随時、規定等の見直しの必要性を検討する。

(18) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）

1. 新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（第 1 回、第 2 回）のデータを東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターへ寄託し、データの 2 次分析を促進する。
2. 第 2 回調査データに関する取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを行う。

(19) 総務委員会（中村幸代理事）

・入会審査を行う。
会員管理データシステムの稼働状況を把握し課題を明確にして改善策を検討する。
・事務所職員の業務内容を整理し、新体制の構築やバックアップ体制の構築など、安全性の確保を図る。
・各事務所職員の所掌業務に関するマニュアルの見直しを促し修正する。
・各事務所職員に年間目標を立案してもらい、結果を職員と共に評価する。
・事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

(20) 研究助成選考委員会（法橋尚宏副理事長）

2023 年度助成金実施事業の確認
2024 年度の募集
① 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
② 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
募集期間：2023 年 7 月～10 月（予定）
選考委員会の開催：2023 年 12 月～2024 年 1 月（予定）

(21) 選挙管理委員会（中村幸代理事）

2023 年役員候補者名簿の提出

(22) 他機関との連携（法橋尚宏副理事長／大久保暢子理事）

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

③ 日本学術会議

④ その他の機関

2023年度　事業活動収支予算書（案）

2023年 4月 1日 から2024年 3月 31日 まで

科　　目	補足	2023年度予算額 (2023. 4. 1～ 2024. 3. 31)	2022年度 ２次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
Ⅰ　事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入		**101,750,000**	**101,450,000**	**300,000**
正会員会費収入	※1	101,500,000	101,200,000	300,000
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0
②公益目的事業収入		**48,165,000**	**62,169,000**	**△ 14,004,000**
寄付金収入（共通）	※3	0	8,042,000	△ 8,042,000
学術振興事業収入		240,000	3,120,000	△ 2,880,000
JANSセミナー	※4	240,000	3,120,000	△ 2,880,000
学会誌事業収入		2,175,000	5,007,000	△ 2,832,000
学会誌販売収入	※5	690,000	377,000	313,000
著作権料収入	※6	775,000	3,200,000	△ 2,425,000
学会誌収入その他	※7	650,000	300,000	350,000
JJNSセミナー	※8	60,000	1,130,000	△ 1,070,000
学術集会事業収入		45,750,000	46,000,000	△ 250,000
学術集会参加費収入		44,300,000	42,500,000	1,800,000
事前登録会員（11,000円）		19,800,000	20,000,000	△ 200,000
事前登録非会員（14,000円税込）		7,000,000	5,400,000	1,600,000
事前登録学部生（無料）		0	0	0
事前登録海外オンライン（2,000円）		0	140,000	△ 140,000
当日登録会員（13,000円）		13,000,000	12,000,000	1,000,000
当日登録非会員（15,000円税込）		4,500,000	4,900,000	△ 400,000
当日登録学部生（無料）	※9	0	0	0
当日登録海外オンライン（2,000円）		0	60,000	△ 60,000
寄附金・助成金		1,450,000	3,500,000	△ 2,050,000
寄附金		500,000	500,000	0
助成金		950,000	3,000,000	△ 2,050,000
③収益事業等収入（広告販売収入）		**9,168,000**	**9,911,000**	**△ 743,000**
企業展示出展料		5,390,000	5,148,000	242,000
広告掲載料		2,178,000	2,123,000	55,000
ランチョンセミナー		1,600,000	2,640,000	△ 1,040,000
④法人会計収入		**951,000**	**751,000**	**200,000**
懇親会収入	※10	950,000	750,000	200,000
特定資産受取利息収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
事業活動収入合計（Ⅰa）		**160,034,000**	**174,281,000**	**△ 14,247,000**
2. 事業活動支出				
①公益目的事業支出		**129,547,000**	**129,858,000**	**△ 311,000**
学術振興事業支出		32,301,000	23,650,000	8,651,000
研究・学術推進委員会費支出		1,154,000	1,540,000	△ 386,000
看護ケア開発・標準化委員会		9,520,000	10,120,000	△ 600,000
若手研究者活動推進委員会費支出		955,000	587,000	368,000
国際活動推進委員会費支出		650,000	620,000	30,000
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		200,000	300,000	△ 100,000
看護学学術用語検討委員会費支出	※11	1,381,000	628,000	753,000
看護倫理検討委員会費支出		477,000	363,000	114,000
災害看護支援委員会支出		500,000	400,000	100,000
若手研究者助成選考委員会		90,000	60,000	30,000
若手研究者助成金支出	※12	5,000,000	3,000,000	2,000,000
研究助成選考委員会	※13	922,000	4,500,000	△ 3,578,000
研究助成金支出	※14	10,000,000	0	10,000,000
研究倫理審査委員会費		94,000	140,000	△ 46,000
JANSセミナー開催費	※15	1,358,000	1,392,000	△ 34,000
学会誌事業支出		37,325,000	34,809,000	2,516,000
和文誌編集委員会費支出		48,000	115,000	△ 67,000
和文誌編集費支出	※16	12,285,000	10,870,000	1,415,000
英文誌編集委員会費支出		570,000	940,000	△ 370,000
英文誌編集費支出	※17	21,845,000	19,900,000	1,945,000
表彰論文選考委員会費支出		474,000	354,000	120,000
受賞論文表彰費支出	※18	653,000	1,500,000	△ 847,000
JJNSセミナー開催費	※19	1,450,000	1,130,000	320,000
学術集会費支出		55,059,000	65,432,000	△ 10,373,000
当年度開催学術集会	※20	50,644,000	62,208,000	△ 11,564,000
次年度開催学術集会（準備期間）	※21	4,415,000	3,224,000	1,191,000
市民講座等事業支出		4,862,000	5,967,000	△ 1,105,000
社会貢献委員会支出（市民公開講座開催費含む）	※22	3,162,000	4,477,000	△ 1,315,000
広報委員会費支出(公益目的事業分)		1,700,000	1,490,000	210,000

科　　目	補足	2023年度予算額 (2023. 4. 1～ 2024. 3. 31)	2022年度 ２次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
②管理費支出		**67,636,000**	**73,342,000**	**△ 5,706,000**
給料手当支出	※23	26,564,000	25,065,000	1,499,000
福利厚生費支出	※23	4,808,000	4,512,000	296,000
通勤費支出	※24	1,794,000	1,910,000	△ 116,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※25	518,000	520,000	△ 2,000
社員総会費	※26	3,930,000	3,400,000	530,000
理事会費	※27	2,917,000	2,580,000	337,000
委託費支出	※28	7,347,000	9,286,000	△ 1,939,000
人件費支出		40,000	40,000	0
渉外費支出		20,000	14,000	6,000
旅費交通費支出	※29	780,000	357,000	423,000
通信運搬費支出		2,124,000	2,124,000	0
消耗品費支出	※30	1,100,000	3,382,000	△ 2,282,000
印刷製本費支出		135,000	203,000	△ 68,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		618,000	617,000	1,000
賃借料支出	※31	7,778,000	7,114,000	664,000
保険料支出		83,000	91,000	△ 8,000
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		950,000	840,000	110,000
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出	※32	2,888,000	3,000,000	△ 112,000
懇親会運営費支出		2,000,000	2,288,000	△ 288,000
委員会活動費支出		362,000	5,119,000	△ 4,757,000
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
利益相反委員会費支出		135,000	135,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		192,000	660,000	△ 468,000
選挙費用支出		5,000	4,294,000	△ 4,289,000
③その他支出		**2,200,000**	**2,200,000**	**0**
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
事業活動支出合計(Ⅰb)		**199,383,000**	**205,400,000**	**△ 6,017,000**
事業活動収支差額(Ⅰa)-(Ⅰb)	※33	**△ 39,349,000**	**△ 31,119,000**	**△ 8,230,000**

※1　2023年4月1日時点での会員数を10,100名、新入会者・再入会者750名、資格喪失者700名と見積もり、合計10,150名分を会費収入として計上。

※2　㈱日本看護協会出版会(2口)、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版(各1口)。賛助会費1口5万円。

※3　2022年度は、第6回世界看護科学学会学術集会(2020年2月開催)からの寄付金があった。

※4　第22回と第23回JANSｾﾐﾅｰの参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。

※5　日本看護科学学会会誌（和文誌）の投稿論文増加により2冊仕様(上下巻)となっており、値上げのため増額が見込まれる。
（1冊：10,000円＋税）→（上下巻：18,000円＋税）

※6　和文誌・英文誌の著作権料。学術著作権協会の計算指標の見直しによる。

※7　和文誌(会員外の共著者投稿料)、英文誌(会員外の超過ページ課金)。

※8　JJNSセミナー2023の参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。

※9　第43回学術集会の参加費、寄附金、協賛金などの収入。

※10　第43回学術集会の企画であるが参加者の交流の場であることから公益目的事業（事業費）ではなく管理費に含む。

※11　電子システム（JANSPedia)の実装促進のための費用および、英語版を作成するための翻訳費など。

※12　若手研究者助成資金の積立てから取り崩して若手研究者助成金支出に充当する。

※13　助成業務サポートシステム利用料。

※14　研究助成資金の積立てから取り崩して研究助成金支出に充当する。

※15　第22回と第23回のＪＡＮＳセミナー開催費用。

※16　投稿論文の増加、会員外の共著及び、迅速査読の導入により投稿論文の更なる増加と編集作業の増加が見込まれるため増額している。

※17　航空運賃の高騰などにより編集長報酬の見直しをしている。

※18　既存の演題表彰システム、副賞を利用するため経費支出が抑えられている。

※19　JANSセミナー2023の開催費用。

※20　第43回学術集会に関わる開催当年度の費用。（開催地：山口県）

※21　第44回学術集会に関わる開催前年度の費用。（開催地：熊本県）

※22　次世代の看護額研究者の育成・発掘動画サイト作成にかかる費用など。

※23　正職員5名、パート2名(週1～3日勤務)の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。

※24　事務所移転に伴い見直している。

※25　学会総会1回開催(12月/第43回学術集会の会場を使用)

※26　社員総会2回開催（6月東京・12月下関/貸し会議室使用）　会員の増加に伴い代議員を312名から340名にに増員している。

※27　定例理事会6回開催（5月、6月、9月、10月、12月、2月）加えて理事の改選により臨時理事会を開催する。（6月･12月は貸し会議室使用)。

※28　前年度に事務所の移転を行ったため差額がでている。
【法人として必要】
会計事務所(150万円)＜会計顧問料(78万円)､内閣府提出書類作成料(11万円)､社会保険労務士(33万円)､変更認定書類作成(28万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)、司法書士(10万円)
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料(272万円)＜基本利用料(112万円)、会費コンビニ決済機能(27万円)、学術集会参加登録・行事管理機能(79万円)、クレジット決済機能(33万円)、ディスク領域使用料(6万円)アンケート機能(15万円)＞、JANSホームページ年間維持更新管理料(157万円)、翻訳費用(16万円)、Ｗｅｂ会議システムZoom(24万円)、封入・発送手数料(30万円)

※29　事務職員の出張に伴う交通費。第43回は下関開催のため、前年度（広島開催）より増額している。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。

※30　前年度に事務所の移転を行ったため差額が出ている。（新規什器備品の購入など）

※31　前年度に事務所の移転を行ったため差額が出ている。（家賃、共益費の増額）

※32　会費回収手数料（ゆうちょ銀行・コンビニ）の改定に伴い増額している。

※33　事業活動収支差額には､会員のセミナー参加費無料化に伴う収入減(約400万円)、積立資金から取り崩す助成金支出(1,500万円)、投稿数の増加による和文誌編集費支出の増額(150万円)、航空運賃の高騰による英文誌編集長の旅費の見直しにより英文誌編集費支出が増額(200万円)､代議員の増員による社員総会費の増額(53万円)等を含む。

公益社団法人　日本看護科学学会

２０２３年度　収支予算書（案）

2023年4月1日から2024年3月31日

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
Ⅰ　一般正味財産増減の部											
１．経常増減の部											
(1)経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					50,750,000	50,750,000				50,750,000	101,500,000
賛助会員受取会費					250,000	250,000					250,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		690,000				690,000					690,000
著作権料		775,000				775,000					775,000
学会誌収益その他		650,000				650,000					650,000
セミナー収益	240,000	60,000				300,000					300,000
学術集会参加費			44,300,000			44,300,000					44,300,000
広告販売収入							9,168,000		9,168,000		9,168,000
懇親会収入										950,000	950,000
寄付金・助成金			1,450,000			1,450,000					1,450,000
雑収益											
受取利息										1,000	1,000
その他の雑収入											
経常収益計	240,000	2,175,000	45,750,000		51,000,000	99,165,000	9,168,000		9,168,000	51,701,000	160,034,000
①事業費											
学会誌発行費		34,130,000				34,130,000					34,130,000
受賞論文表彰費		653,000				653,000					653,000
支払助成金	15,000,000					15,000,000					15,000,000
会場費	250,000	160,000	22,432,156	250,000		23,092,156	378,844		378,844		23,471,000
会議費	195,000	132,000	542,832	30,000		899,832	9,168		9,168		909,000
旅費交通費	1,446,039	847,098	3,053,392	448,377		5,794,906	54,537	6,407	60,944		5,855,850
消耗品費	537,824	109,625	2,268,527	160,019		3,075,995	42,500	9,037	51,537		3,127,532
通信運搬費	1,585,336	197,712	4,078,774	162,273		6,024,095	76,971	17,448	94,419		6,118,514
印刷製本費	7,464,737	21,613	3,835,241	204,911		11,526,502	65,286	1,109	66,395		11,592,897
委託費	7,454,557	1,632,009	17,731,237	3,659,289		30,477,092	56,907	60,355	117,262		30,594,354
諸謝金	1,553,000	10,000	800,000	200,000		2,563,000					2,563,000
雑費	1,182,836	298,434	2,687,436	105,067		4,273,773	56,382	23,725	80,107		4,353,880
賃借料	2,692,771	669,085	1,813,741	282,969		5,458,566	60,245	63,896	124,141		5,582,707
租税公課	8,986	81,432	430,562			520,980	343,252		343,252		864,232
通勤手当	621,089	154,325	418,340	65,267		1,259,021	13,896	14,738	28,634		1,287,655
退職給付費用	450,065	111,830	303,145	47,295		912,335	10,069	10,679	20,748		933,083
福利厚生費	1,664,546	413,598	1,121,171	174,918		3,374,233	37,240	39,498	76,738		3,450,971
光熱水料費	213,954	53,162	144,110	22,483		433,709	4,787	5,077	9,864		443,573
修繕費	17,310	4,301	11,660	1,819		35,090	387	411	798		35,888
保険料	28,735	7,140	19,355	3,019		58,249	643	682	1,325		59,574
減価償却費	935,890	35,753	96,918	15,121		1,083,682	3,219	3,414	6,633		1,090,315
給料手当（委員会等人件費含む）	9,804,550	2,655,109	6,546,422	1,131,417		20,137,498	205,753	218,223	423,976		20,561,474

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
懇親会費											
学会総会費											
社員総会費											
理事会費											
会場費											
会議費										7,391,000	7,391,000
旅費交通費										280,150	280,150
消耗品費										320,468	320,468
通信運搬費										619,486	619,486
印刷製本費										38,103	38,103
委託費										2,238,646	2,238,646
諸謝金										73,000	73,000
雑費										823,120	823,120
賃借料										2,195,293	2,195,293
租税公課										85,768	85,768
通勤手当										506,345	506,345
退職給付費用										366,917	366,917
福利厚生費										1,357,029	1,357,029
光熱水料費										174,427	174,427
修繕費										14,112	14,112
保険料										23,426	23,426
減価償却費										117,307	117,307
渉外費										20,000	20,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										430,000	430,000
支払寄付金											
懇親会費										2,000,000	2,000,000
給料手当（委員会等人件費含む）										7,587,526	7,587,526
経常費用計	53,107,225	42,377,226	68,335,019	6,964,244		170,783,714	1,420,086	474,699	1,894,785	26,712,123	199,390,622
当期経常増減額	△ 52,867,225	△ 40,202,226	△ 22,585,019	△ 6,964,244	51,000,000	△ 71,618,714	7,747,914	△ 474,699	7,273,215	24,988,877	△ 39,356,622
２．経常外増減の部											
(1)経常外収益											
経常外収益計											
(2)経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					7,528,237	7,528,237	△ 7,528,237		△ 7,528,237		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 52,867,225	△ 40,202,226	△ 22,585,019	△ 6,964,244	58,528,237	△ 64,090,477	219,677	△ 474,699	△ 255,022	24,988,877	△ 39,356,622
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 52,867,225	△ 40,202,226	△ 22,585,019	△ 6,964,244	58,528,237	△ 64,090,477	149,677	△ 474,699	△ 325,022	24,988,877	△ 39,426,622

注1　従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。
注2　従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。
注3　従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。
注4　従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。